

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 身体の仕組みと働き	解剖生理学 I Human Anatomy and Physiology I	2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	解剖生理学は医学の体系のなかでも最も基礎となる学問である。解剖生理学 I ではまず解剖生理学のための基礎知識および骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系についてそれぞれの形態と構造および機能を学ぶ。その知識がもとになって病気の成り立ちやさまざまな健康問題が理解できるようになる。この科目では関係が深い他の科目との関連性も含めて解剖生理学の諸知識を修得することを目的とする。					
キーワード	人体の構造と機能 器官 骨格 筋 脈管	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造や機能に関する用語とその意味を説明できる。 ・人体の種々の器官の位置関係や形状、内部構造を説明できる。 ・人体の種々の器官の機能や人体における役割を説明できる。 ・自身の体表から触知できる骨格、大きな筋、動脈などを説明できる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
人体とは何かという解剖生理学を学ぶための基礎知識をまず理解し、身体の支持と運動、栄養の消化と吸収、呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節などについて学修する。覚える事柄が多いので、必ず予習と復習をすること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
解剖生理学は、多くの専門基礎教育科目や専門教育科目と密接に関連しており、それらの科目を学修し理解するためにも必要な科目のひとつである。履修に必要な予備知識や技能は特にありません。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：系統看護学講座 解剖生理学 著者名：坂井 建雄／岡田 隆夫 出版社：医学書院			解剖生理学ワークブック 医学書院 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能(1) メディカ出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	人体の構造と機能について正しく理解する。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。				◎
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。				○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	25	10				10	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人体の構造と機能に関する基本的知識を理解し、さまざまな他の科目の教科内容と関連 づけて理解することができる。					人体の構造と機能に関する基本的知識を正しく理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	人体の構造と機能を学ぶために 解剖生理学を学ぶための基礎知識（1） 構造からみた人体 人体のさまざまな器官	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第2回 /	解剖生理学を学ぶための基礎知識（2） 素材からみた人体	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	解剖生理学を学ぶための基礎知識（3） 機能からみた人体	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第4回 /	身体の支持と運動（1） 骨格系（i） ①骨と骨格 ②頭蓋 ③体幹の骨格	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	身体の支持と運動（2） 骨格系（ii） ①体肢の骨格 ②関節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第6回 /	身体の支持と運動（3） 筋系（i） ①筋の種類 ②筋の機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	身体の支持と運動（4） 筋系（ii） ①身体の運動と骨格筋 ②骨格筋の解剖生理	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第8回 /	栄養の消化と吸収（1） 口・咽頭・食道の構造と機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	栄養の消化と吸収（2） 腹部消化管の構造と機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第10回 /	栄養の消化と吸収（3） 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第11回 /	呼吸と血液のはたらき（1） 呼吸器の構造	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第12回 /	呼吸と血液のはたらき（2） 呼吸	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第13回 /	呼吸と血液のはたらき（3） 血液	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	血液の循環とその調節（1） 循環器系の構成、心臓の構造	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	血液の循環とその調節（2） 心臓の拍出機能	講義 小テスト	授業の復習	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 身体の仕組みと働き	解剖生理学Ⅱ Human Anatomy and Physiology II	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	解剖生理学は医学の体系のなかでも最も基礎となる学問である。解剖生理学Ⅱでは解剖生理学Ⅰに引き続き、循環器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、免疫系、生殖器系などの形態と構造および機能を学び、その知識がもとになって病気の成り立ちやさまざまな健康問題が理解できるようになる。この科目では関係が深い他科目との関連性も含めて解剖生理学の諸知識を修得することを目的とする。					
キーワード	人体の構造と機能 器官 骨格 筋 脈管	学修教育目標	・人体の構造や機能に関する用語とその意味を説明できる。 ・人体の種々の器官の位置関係や形状、内部構造を説明できる。 ・人体の種々の器官の機能や人体における役割を説明できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
人体とは何かという解剖生理学を学ぶための基礎知識をまず理解し、血液の循環とその調節、体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節、情報の受容と処理、外部環境からの防御、生殖・発生と老化のしくみ、体表からみた人体の構造などについて学修する。覚える事柄が多いので、必ず予習と復習をすること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
解剖生理学は、多くの専門基礎教育科目や専門教育科目と密接に関連しており、それらの科目を学修し理解するためにも必要な科目のひとつである。履修に必要な予備知識や技能は特にありません。						
教科書			参考書・リザーブドブック			
書名：系統看護学講座 解剖生理学 著者名：坂井 建雄／岡田 隆夫 出版社：医学書院			解剖生理学ワークブック 医学書院 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能(1) メディカ出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	人体の構造と機能について正しく理解する。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。				◎
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。				○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	25	10				10	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>人体の構造と機能に関する基本的知識を理解し、さまざまな他の科目の教科内容と関連づけて理解することができる。</p>					<p>人体の構造と機能に関する基本的知識を正しく理解することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	血液の循環とその調節（3） 末梢循環系の構造	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第2回 /	血液の循環とその調節（4） 血液の循環の調節、リンパとリンパ管	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	体液の調節と尿の生成（1） 腎臓、排尿路	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第4回 /	体液の調節と尿の生成（2） 体液の調節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	内蔵機能の調節（1） 自律神経による調節、内分泌系による調節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第6回 /	内蔵機能の調節（2） 全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	内蔵機能の調節（3） ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第8回 /	情報の受容と処理（1） 神経系の構造と機能、脊髄と脳、	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	情報の受容と処理（2） 脊髄神経と脳神経、脳の高次機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第10回 /	情報の受容と処理（3） 運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第11回 /	情報の受容と処理（4） 眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第12回 /	身体機能の防御と適応（1） 皮膚の構造と機能、生体の防御機構	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第13回 /	身体機能の防御と適応（2） 代謝と運動、体温とその調節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	生殖・発生と老化のしくみ（1） 男性生殖器、女性生殖器	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	生殖・発生と老化のしくみ（2） 受精と胎児の発生、成長と老化	講義 小テスト	授業の復習	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 身体の仕組みと働き	生化学 Biochemistry	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	看護職者にとって生命現象に関与する物質を化学的に考察する生化学の知識はさまざまな生体の仕組みや働きを理解するうえで不可欠である。本教科では、生命活動を担う生体の主要な構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸などの構造、性質、機能、代謝などについて学習し、生体内で起こるさまざまな生命現象を理解することを目的とする。					
キーワード	生命のしくみ 生体の構成成分 栄養素（三大栄養素） 代謝	学修教育目標	生命維持に必要な栄養素である糖質、脂質、タンパク質、ビタミンさらには遺伝情報である核酸などの構造と性質について学び、生体内でどのように生合成や代謝が行われているかを理解する。また臨床において必要となる生化学的知識を修得することを目標とする。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
生化学を学ぶための基礎知識をまず理解し、糖質、脂質、タンパク質、核酸、水と無機質、血液と尿、ホルモンと生理活性物質、生体内の物質代謝、酵素、ビタミンと補酵素、糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝、核酸代謝、ポルフィリン代謝、代謝の異常、遺伝情報とその発現、先天性代謝異常症などについて学修する。 また、血液検査等の種々の臨床検査項目についても理解する。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
生物学、栄養学、解剖学、生理学と密接な関連があるので、これらの科目について予備知識があれば、より理解が深められる。						
教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：系統看護学講座 生化学 著者名：畠山 鎮次 出版社：医学書院			書 名：生化学 著者名：石堂 一巳 出版社：南江堂			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	生体を構成する物質および種々の生体内反応について学修し、その異常についても理解する。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				◎
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				○
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。				◎
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。				○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	25	10				10	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>生体を構成する物質および種々の生体内反応とその異常について理解し、病態と関連付けることができる。</p>					<p>生体を構成する物質および種々の生体内反応とその異常について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生化学を学ぶための基礎知識、 生化学とは 生命とは 細胞の構造と機能	講義	授業の復習および次回の講義の予習	30
第2回 /	代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝と生体のエネルギー 酵素の基礎知識 ビタミン	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習 課題の準備	45
第3回 /	糖質の構造と機能 糖質とは、単糖の構造と機能 二糖の構造と機能、 多糖の構造と機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第4回 /	糖質代謝 糖質の消化と吸収 グルコースの分解 グリコーゲン代謝 糖新生 糖質代謝に関する遺伝性疾患	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第5回 /	脂質の構造と機能 脂質とは 脂質の種類 リポタンパク質	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第6回 /	脂質代謝 脂質の消化と吸収 脂肪酸の分解 脂質の合成 脂質代謝に関する遺伝性疾患	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第7回 /	タンパク質の構造と機能 タンパク質とは アミノ酸 タンパク質の構造	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第8回 /	タンパク質代謝 タンパク質の消化と吸収 アミノ酸の分解 非必須アミノ酸の合成	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第9回 /	ポルフィリン代謝と異物代謝 ポルフィリンの構造 ヘムの合成 生体異物代謝 アルコールの分解	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習 課題の準備	45
第10回 /	遺伝子と核酸 遺伝情報 遺伝学の基礎知識 核酸の構造と機能 核酸の代謝	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第11回 /	遺伝子の複製・修復・組換え DNAの複製 DNAの修復 DNAの組換え DNA修復機構の異常 遺伝子多型	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第12回 /	転写 転写とは 転写の開始とRNA鎖の伸長 転写の終結 RNAのプロセッシング 遺伝子の発現調節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第13回 /	翻訳と翻訳後修飾 翻訳の概要 翻訳のメカニズム タンパク質の折りたたみと輸送 翻訳後修飾 細胞内輸送シグナル	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第14回 /	シグナル伝達 シグナル伝達の概要 細胞内シグナル伝達の機序 内分泌の生化学的基盤	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	30
第15回 /	がん がんの性質 細胞周期とがん がん遺伝子 がん抑制遺伝子 染色体転座 がん薬物療法	講義 小テスト	授業の復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 身体の仕組みと働き	栄養学 Nutrition	2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>人体の生命と健康を維持するために必要な食物と栄養素について学ぶ。食生活、食物、栄養摂取が生命維持と健康に果たす役割について、栄養過多・不足と病気との関連と治療への対策について学ぶ。幼児期、妊娠期、老年期等における栄養、経口摂取が困難な場合の栄養の取り方について解説する。</p>					
キーワード	<p>人体の栄養と健康 栄養素 栄養学と看護 各ライフサイクルにおける栄養 栄養と疾病</p>	学修教育目標	<p>栄養素の吸収と代謝のメカニズムについて理解できる。栄養物として食物や栄養素摂取がどのように健康の維持に重要であるのかを理解し、実践できる。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>栄養学は生理学等とともに看護の基本となるので、栄養と健康との関係、栄養摂取・不摂取と疾病との関係を理解する。小テストや国家試験模擬試験などで覚えやすくするので、その都度覚えてほしい。分からないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>生理学・生物学との関連が強い。</p>						
教科書			参考書・リザーブドブック			
<p>書名：系統看護学講座 人体の構造と機能(3) 栄養学 著者名：中村 丁次 他 出版社：医学書院</p>			<p>書名：五訂増補 日本食品成分表 第2版 著者名：医歯薬出版 出版社：医歯薬出版</p>			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	栄養物として食物や栄養素摂取がどのように健康の維持に重要であるのかを理解できる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、小テストなどに主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	積極的に自分自身で予習して理解することができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かることを明確にして課題や小テストに取り組める。				○
	② 計画力	計画的に学修内容を理解していける。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		55	30	15					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	55	30	15					100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								
	特定の健康課題に対応する実践能力								
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
栄養学で現れる現象を理解し、疾病や看護技術との関連を理解できる。 国家試験問題に対して正答を出せる。					栄養学の個々の現象について理解できる。 疾病や看護技術との対応を理解できる。 関連の国家試験問題に正答を出せる。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	栄養と栄養素 栄養と栄養素について概説。栄養学の意味と学習の目的を理解する。	講義	予習	30
第2回 /	医療・看護と栄養学 医療・看護における栄養学の重要性について理解する。	講義	予習・復習	30
第3回 /	栄養素の種類とはたらき（1） 各栄養素の種類とそれぞれの働き方について講義する。 ・炭水化物・糖質・食物繊維	講義・小テスト	予習・復習	30
第4回 /	栄養素の種類とはたらき（2） ・脂質・タンパク質	講義	予習・復習	30
第5回 /	栄養素の種類とはたらき（3） ・ビタミン・ミネラル・水	講義・小テスト	予習・復習	30
第6回 /	食品のエネルギー、エネルギー代謝とエネルギー消費 食品のエネルギー・エネルギー代謝の機構、エネルギー消費について	講義	予習・復習	30
第7回 /	食品のエネルギー、エネルギー代謝とエネルギー消費 食品のエネルギー・エネルギー代謝の機構、エネルギー消費について	講義・課題	予習・復習	30
第8回 /	栄養素の消化と吸収 各栄養素の消化と吸収について	講義	予習・復習	30
第9回 /	栄養素の体内代謝 各栄養素の体内における代謝について	講義	予習・復習	30
第10回 /	血糖・血漿中の脂質・アミノ酸・タンパク質 血糖及び血漿中における脂質・アミノ酸・タンパク質について	講義	予習・復習	30
第11回 /	栄養のケア・マネジメント 栄養のケア・マネジメントについて	講義・小テスト	予習・復習	30
第12回 /	ライフステージと栄養 乳幼児・学童期、青年・成人期、妊娠期、更年期・高齢期各ライフステージにおける栄養について	講義	予習・復習	30
第13回 /	臨床栄養 臨床における栄養について	講義	予習・復習	30
第14回 /	栄養と健康づくり 健康の基本となる栄養と健康の維持および栄養素欠乏・過剰症とその予防・治療について	講義	予習・復習	30
第15回 /	健康づくりと食生活 生活習慣病の予防、食生活の改善への施策、食の安全性と表示などについて	講義	復習・まとめ	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	発達心理学 Developmental Psychology	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	人間は時間と共に変化しつづけていく。それは受精し生命が誕生した時に始まり、死とともに生命がなくなるまで続く。発達心理学は、このような人間の変化を扱う心理学である。本授業においては、人間の生涯発達という観点から、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、言語の発達、社会性の発達、自己意識の発達等、様々な観点から発達心理学を学修する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	心理学 生涯発達	学修教育目標	様々な角度から人間の発達を学ぶことにより、人間の発達の变化を知ることができる。			
-------	-------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

人間の生涯発達という観点から、様々な角度から人間の発達の变化を理解する。 配布資料に従い、主として講義形式でスライドを用いて授業を進める。 配布資料はあくまで要点のみ記載しているものなので、講義内容について重要だと感じた部分は必ず各自ノートを取ること。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「人間の心」の発達分野をさらに深く理解するための科目である。						
--------------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブドブック			
なし			書 名：はじめての発達心理学 著者名：古見文一・西尾祐美子 編 出版社：ナカニシヤ出版			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	あらゆる年代の人の心を理解することができる。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	心と身体の密接な結びつきを理解して予防に役立てることができる。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	進んで学習を深めることができる。				○
	② 働きかけ力	他者から助言を引き出すことができる。				△
	③ 実行力	各自目標を設定し実行することができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかることわからないことを明確にして課題に取り組むことができる。				○
	② 計画力	課題の解決に向けて具体的な方法を考えることができる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聴き理解することができる。				○
	③ 柔軟性	自らの考えにとらわれず相手の意見を聞くことができる。				△
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	マナーやルールの必要性を理解し守ることができる。				△
	⑥ ストレスコントロール力	強いストレス状況を作らないような人間関係の維持や適切な対処を行うことができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立ち集団内の適切な行動をとることができる。				△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10				40	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		50		10				13	73
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力								13	13
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								14	14
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の発達の変化を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。基礎的な理論や知識をさらに深く理解することで主体的に活用できる。					人の発達の変化を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う	講義	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第2回 /	発達的基础(1) ・発達の生物学的基礎 ・発達の過程 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第3回 /	発達的基础(2) ・発達の要因 ・発達の加速現象について コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第4回 /	認知機能の発達(1) ・認識の始まり ・表象的思考の始まり コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第5回 /	認知機能の発達(2) ・「みかけ」からの脱却 ・内的世界の広がり コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第6回 /	認知機能の発達(3) ・加齢と認知発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第7回 /	情動の発達(1) ・情動発達の基礎 ・乳幼児期における情動の発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第8回 /	情動の発達(2) ・情動と親子のコミュニケーション ・情動の生涯発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第9回 /	言語の発達(1) ・言語の獲得 ・発話の発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第10回 /	言語の発達(2) ・言語発達の諸相 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第11回 /	対人関係の広がり和社会性の発達(1) ・子どもの対人世界の広がり ・共感性の発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第12回 /	対人関係の広がり和社会性の発達(2) ・心の理論の発達 ・道徳性の発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第13回 /	自己意識とアイデンティティの発達(1) ・乳幼児期の自己意識 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第14回 /	自己意識とアイデンティティの発達(2) ・児童期の自己意識の発達 ・青年期の自己意識の発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業の内容と日常生活とのつながりを考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第15回 /	老年期の発達 コメントシート	講義 コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・これまでの授業内容の復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	人間関係論 Human Relations	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>現代は人間関係を築くのが難しい時代であると言われる。また人間関係で悩んでいる人が多いとも言われている。このように、人間関係という言葉はよく聞かれるが、その意味するところは必ずしも明確なものではなく、それぞれの立場で用いられている。一方、対人援助職である看護師にとって人間関係を良好に築くことは重要であることは言うまでもない。本授業では、心理学の観点から人間関係を取り上げ、様々な角度から理解を深めていきたい。</p>					
キーワード	心理学 自己理解・他者理解	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解と他者理解を深め、自分自身が良好な人間関係を築けるための知識や技法を身に付けることができる。 看護師として患者・医療スタッフとの良好な人間関係を構築に努めようとする問題意識を身に付けることができる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>心理学の観点から、様々な角度から人間関係について理解を深める。 スライドを用いて主として講義形式で授業を進める。必要に応じて資料を配布する。 講義内容について重要だと感じた部分は必ず各自ノートを取ることを。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>「人間の心」 「発達心理学」</p>						
教科書			参考書・リザーブドブック			
なし			<p>書名：人間関係論（系統看護学講座 基礎分野）第3版 著者名：長谷川 浩（編） 出版社：医学書院</p>			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	集団における様々な人間関係についての理論や知識を身につけることができる。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	心と身体の密接な結びつきを理解することができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	進んで学習を深めることができる。				○
	② 働きかけ力	他者から助言を引き出すことができる。				△
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかることわからないことを明確にして課題に取り組むことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を論理的に整理し伝えることができる。				○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聴き理解することができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立ち集団内の適切な行動をとることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		30						30	60
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10						10	20
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		10						10	20
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の心を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。 基礎的な理論や知識をさらに深く理解することで主体的に活用できる。					人の心を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第2回 /	自己と他者(1) - 自己理解と他者理解 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第3回 /	自己と他者(2) - 第一印象・対人認知 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第4回 /	自己と他者(3) - スキーマ・印象形成 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第5回 /	親密な人間関係 - 対人魅力・親密な人間関係 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
第6回 /	対人コミュニケーション	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第7回 /	他者から受ける影響	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第8回 /	集団の心理学	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第9回 /	発達段階による人間関係(1) - 乳幼児期 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第10回 /	発達段階による人間関係(2) - 児童期・青年期 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第11回 /	発達段階による人間関係(3) - 成人期・老年期 -	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第12回 /	自分自身を見つめる	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第13回 /	ストレスと人間関係	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第14回 /	幸福と人間関係	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	60
	コメントシート			
第15回 /	看護における人間関係	講義・質疑応答	復習：これまでの講義内容の振り返り	180
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	健康心理カウンセリング Health Psychology Counseling	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	健康心理カウンセリングとは、「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを主目的として、心理学的立場から、個人あるいはグループを対象として行われる実践的援助活動」であることを学ぶ。					
キーワード	カウンセリングのプロセス 認知行動療法的アプローチ 自己効力感 ストレスマネジメント	学修教育目標	健康心理カウンセリングの基本的考え方や技法、適用法を理解し、隣接領域である臨床心理学における心理療法との、類似点、相違点についても明確にできる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
カウンセリングは、現在幅広くあらゆる学問領域において学習の基幹とされている。特に心理学、そして健康心理学においても重要であり、カウンセリングは学習する取り組みにおいて、指導する側と指導される側が、相互にどういう状況で何が伝えられるのかにより成果が上がる。健康心理カウンセリングは、「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを目的とし」、「何をどこまで知り得て何を知らなければならないか」を検討しながら授業が進められるので、授業の中で自己反芻していくことが望ましい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
生理学的メカニズム、パーソナリティ、ストレス、ヘルスプロモーション、アセスメント、適応（疾患、問題行動）、対人・集団・社会、ヘルスケアシステム、カウンセリング、健康心理学的支援法・災害後支援、性・ジェンダー、研究法・倫理など多様な要素を含んでいるため、幅広い知識を身につけておくことが望ましい。						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
書 名：健康心理学基礎シリーズ③ 「健康心理カウンセリング概論」 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版				授業の中で適宜紹介する。		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	健康観の向上に必要な傾聴方法を習得することができる。				○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	率先して「健康増進、健康維持、健康回復の生活習慣」を形成することができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。				○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コカト等)	合計
総合評価割合		59	30					11	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	20	5						25
	特定の健康課題に対応する実践能力	10							10
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5						5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	10						11	20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力	10	5						15
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力	9	5						14
	地域の健康危機管理能力		5						5
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		5						5
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
<p>「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成すること」を十分に理解し、医療従事者を目指す学生として、自身が実践できるようになる。さらに個人またはグループを対象として「実践的な援助活動」が積極的に実践できるようになる。</p>					<p>「健康増進、健康維持、健康回復と生活習慣」を理解できる。さらに医療従事者を目指す学生として、自身が個人またはグループを対象として「実践的な援助活動」をやってみようという意欲や動機を高めることができるようになる。</p>				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	健康心理カウンセリング 臨床心理学におけるカウンセリング 健康心理カウンセリングの意義と役割 臨床心理学におけるカウンセリングをどの程度理解しているか	講義 受講アンケート調査	第1回目の復習	10
第2回 /	健康心理カウンセリング 健康心理カウンセリングの進め方 プロチャスカのステージモデル プロセスと健康行動の変容、の理解度	講義 受講アンケート結果 コメントシート	資料の予習復習（プロセス・ステージモデル）	10
第3回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法（1） カウンセリング技法－認知行動療法 悪循環、三項随伴性、の理解度	講義 コメントシート	資料予習復習（三項随伴性）	10
第4回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法（2） カウンセリング技法－交流分析 交流分析の理解度	講義 視聴覚教材（交流分析） 小テスト①	資料予習復習（交流分析）	10
第5回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法（3） カウンセリング技法－自律訓練法 自律訓練法の理解度	講義 視聴覚教材（自律訓練法） コメントシート	資料予習復習（自律訓練法）	10
第6回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法(4) カウンセリング技法－理性感情行動療法 認知と感情と行動の関連性の理解度	講義 コメントシート	資料予習復習（理性感情行動療法）	10
第7回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法(5) マイクロカウンセリング：基本的傾聴 基本的関わり技法の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（マイクロカウンセリング）	10
第8回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法(6) マイクロカウンセリング：質問方法 質問方法の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（喫煙・飲酒行動のカウンセリング）	10
第9回 /	喫煙行動のカウンセリング 禁煙におけるカウンセリングについて 行動制御の理解度	講義 小テスト②	資料の予習復習	10
第10回 /	食行動のカウンセリング 食行動の変容を目指すカウンセリングについて 変容プロセスについての理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（食行動のカウンセリング）	10
第11回 /	身体疾患におけるカウンセリング 身体疾患にともなう心理的問題 心身の関連性の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（身体疾患）	10
第12回 /	健康を害しやすい性格とカウンセリング タイプA行動パターン タイプAの行動についての理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（タイプA行動のカウンセリング）	10
第13回 /	ストレスマネジメント ストレスマネジメントにおけるカウンセラーの教育的役割 各種ストレスマネジメントの理解度	講義 小テスト③	資料の予習復習	10
第14回 /	健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム 組織の中での健康心理カウンセラーの役割について ヘルスケアシステムの理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（ヘルスケア行動）	10
第15回 /	健康心理カウンセリングの基本的考え方、技法、適用法のまとめ 試験対策の準備ができている	講義 コメントシート	健康心理カウンセリング全体についてまとめる	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	臨床心理カウンセリング Clinical and Counseling Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>臨床心理学は、心理学を中心とした知識や理論を用いて、対人援助の方法を研究・実践する心理学の分野のひとつと考えられる。看護実践においては、日々さまざまな対象者の方々に身体面・精神面においてケアを提供することが求められる。また、時に応じた柔軟な対応や判断が必要とされることも多い。さらに、ストレスの多い感情労働に携わる専門職として、ご自身のストレスに対する対処も重要な課題になると考えられる。本科目においては、看護実践における基礎的な支援力を高めることを目指し、臨床心理学の理論、また、アセスメントや援助技法について理解を深めることを目的としている。また、ロール・プレイングなどの実習を行い、ケアの場面や相談関係において必要とされる対人態度や援助技法の習得を目指したい。臨床心理学の知見やカウンセリング技法を身につけることで、援助者としての視点を広げ、実践を支える対象者との関係性を促進することができると考えられる。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	臨床心理学 カウンセリング 援助技法	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 多様な対人援助の場面において、幅広い視野と洞察力をさらに深めるために、臨床心理学の知見を活用できる。 ロール・プレイングをとおして、カウンセリングの基本技法を身につける。 			
-------	--------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>医療場面における臨床心理学の適応について概観し、心理アセスメント、理論について概観する。看護の場面で活用できる理論・技法について、ポイントを絞って調べ、レポートにして提出できるように、主体的に学習を進めてほしい。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「精神看護学概論」「成人看護学概論」のほか、対人援助にかかわる心理の理解につながりがあります。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブドブック
使用しない（資料配布）	書名：よくわかる臨床心理学 著者名：岩壁茂 出版社：ミネルヴァ書房

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	健康—疾患の連続性をふまえて、臨床心理学的な観点から人間理解を深める。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	対象者に協働して、健康問題に取り組むよう声をかけることができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を注意深く見て、理解する力を養う。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスが生じている場合に、状況に柔軟に対処できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	20				15	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		20	15	10					45
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力		20							20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10		10					20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力								15	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床心理学の基本的な技法について、位置づけを理解しつつ、概観することができる。さらに、看護の現場での活用をイメージしつつ、技法を理解し、実践することができる。					看護の現場での活用をイメージしつつ、臨床心理学の基本的な技法について、理解し、実践に生かすことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 基本的な臨床心理学的援助のプロセス	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			
第2回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎① 心理アセスメントとパーソナリティの理解	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第3回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎② 心理アセスメントとパーソナリティの理解	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 30
	コメントシート、小テストなど			
第4回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎③ 言語的・非言語的コミュニケーションと面接態度	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第5回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎④ 面接実習—ピア・カウンセリング	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第6回 /	さまざまな臨床心理カウンセリングの技法	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第7回 /	臨床心理学の基礎理論 フロイトの精神分析理論	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 30
	コメントシート、小テストなど			
第8回 /	臨床心理学の基礎理論 学習理論と行動療法の発展	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第9回 /	臨床心理学の基礎理論 認知行動的アプローチ	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第10回 /	臨床心理学の基礎理論 自己理論と人間学的理解の基礎	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第11回 /	トピック：精神科医療の歴史（1） 異常心理学の起源から現代的理解の発展	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第12回 /	トピック：精神科医療の歴史（2） 異常心理学の起源から現代的理解の発展	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第13回 /	芸術療法 箱庭実習	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第14回 /	個人精神療法と集団精神療法	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			
第15回 /	カウンセリングと倫理	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	口腔保健と健康 Oral disease and health care	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>近年、入院患者における口腔ケアの必要性・重要性が認識されつつある。高齢者における肺炎のうち口腔清掃不良や歯周病による細菌が原因でおこる誤嚥性肺炎が占める割合は約7割あるという調査報告もある。従来、医科・歯科と区別されがちであるが、口腔は食物を取り入れる重要な器官であると同時に全身疾患との関連性も深い。本講義では口腔組織とその役割、口腔内における疾患とその予防、口腔ケアの方法と実践を学ぶ。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	口腔ケア、歯周病、口腔組織、口腔疾患、口腔清掃	学修教育目標	<p>口腔の組織や役割を理解することができる。 口腔疾患の種類と症状などを理解することができる。 口腔疾患と全身との関わりを理解することができる。 口腔清掃の方法と重要性を理解することができる。</p>			
-------	-------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>歯・口腔疾患について系統的に学ぶ機会がこれが最初で最後になるので講義はしっかり聞いて下さい。 患者の口腔内写真、X線写真、手術写真などのスライドを使用し、興味を持って学べるようにします。 歯科特有の言葉などわからないことはいつでも質問して下さい。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>特になし。</p>						
--------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
<p>書名：系統看護学講座 専門分野 歯・口腔 成人看護学 15 著者名：渋谷 絹子 他 出版社：医学書院</p>			<p>書名：まるごと図解 摂食嚥下ケア 著者名：青山寿昭 出版社：照林社 書名：摂食嚥下 ビジュアル リハビリテーション 著者名：稲川利光編 出版社：Gakken 書名：動画でわかる 摂食嚥下リハビリテーション 著者名：藤島一郎他 出版社：中山書店</p>			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	口腔の組織や役割を理解することができる。口腔疾患の種類と症状などを理解することができる。口腔疾患と全身との関わりを理解することができる。口腔清掃の方法と重要性を理解することができる。	△
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	口腔の組織や役割を理解することができる。口腔疾患の種類と症状などを理解することができる。口腔疾患と全身との関わりを理解することができる。口腔清掃の方法と重要性を理解することができる。	△
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	口腔の組織や役割を理解することができる。口腔疾患の種類と症状などを理解することができる。口腔疾患と全身との関わりを理解することができる。口腔清掃の方法と重要性を理解することができる。	○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	口腔の組織や役割を理解することができる。口腔疾患の種類と症状などを理解することができる。口腔疾患と全身との関わりを理解することができる。口腔清掃の方法と重要性を理解することができる。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	口腔の組織や役割を理解することができる。口腔疾患の種類と症状などを理解することができる。口腔疾患と全身との関わりを理解することができる。口腔清掃の方法と重要性を理解することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	○
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	25	25					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5	5					20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10	5	5					20
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	5	5					20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		10	5	5					20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	5	5					20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
口腔疾患の種類と症状を十分理解している。 口腔疾患と全身との関わりを十分理解している。 口腔清掃の方法と重要性を十分理解している。					口腔疾患の種類と症状を概ね理解している。 口腔疾患と全身との関わりを概ね理解している。 口腔清掃の方法と重要性を概ね理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	イントロダクション 序章 この本で学ぶこと・歯・口腔疾患をもつ患者の姿	講義	授業内容の復習	30
第2回 /	第1章 歯・口腔の看護を学ぶにあたって ・医療の動向と看護 ・患者の特徴と看護の役割	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第3回 /	第2章 歯・口腔の構造と機能（1） 普段あまり意識しない歯・口腔の機能と役割を考えてみよう。 比較的狭い領域である口腔を解剖学的、また、組織学的な見地から見てみよう。	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第4回 /	第2章 歯・口腔の構造と機能（2）	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第5回 /	第3章 症状とその病態生理	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第6回 /	口臭とウ蝕 口臭はなぜ発生するのか、また、その予防法は。	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第7回 /	第4章 検査と治療・処置（1） 主な歯科疾患の治療法、処置について解説する。	講義 ビデオの視聴 口腔保健と健康レポート課題	授業内容の復習	30
第8回 /	第4章 検査と治療・処置（2） 主な歯科疾患の治療法、処置について解説する。	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第9回 /	第5章 疾患の理解（1） ・口腔内の疾患（1） 口腔内における三大疾患といわれる齲蝕、 歯肉炎、歯周炎等について 解説する。	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第10回 /	第5章 疾患の理解（2）	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第11回 /	第5章 疾患の理解（3）	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第12回 /	口腔内の疾患と全身とのかかわり 歯科疾患と全身疾患との関係について解説する。	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第13回 /	第6章 患者の看護 学習課題に対する発表・討論	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第14回 /	特論 口腔ケア	講義 ビデオの視聴	授業内容の復習	30
第15回 /	口腔ケア、歯口清掃器具 歯口清掃器具の種類とその使用法などを解説する。 練習問題、まとめ	講義 練習問題	授業内容の復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	看護職のための関係法規 Nursing-related Laws and Regulations	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>看護職の業務に関わる者は、その業務に関わりのある法規を充分把握して、責務を遂行する必要がある。また、対象者である人々もまた、社会的規範の中で生活をしている。適切な対応をするための必要な関係法規として、本論では、保健師助産師看護師法をはじめとする医療・保健・福祉の関係法規等について目的・定義等を学ぶ。また、医療看護活動上で起きる事故とその対応や法的責任等についても、専門職者として基本的遵守事項として学修する。</p>					
キーワード	看護職の業務、法規、社会的規範 保健師助産師看護師法	学修教育目標	<p>①人間を生活者としてとらえ、家族・社会的存在としての人間について理解する。 ②社会保障の理念と基本的な誠意度の考え方について理解する。 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解する。 ③公衆衛生の基本的内容、生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方について理解する。 ④人々の健康を守るためのサービス提供期間と従事者の役割・機能に関する基本的な法律について理解する。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>社会的生活者としての人間、法の内容、看護法、医事法、保健衛生法、薬務法、環境衛生法、社会保険法、福祉法、労働法と社会基盤整備、環境法、医療・看護と人権、医療・看護過誤などに関する法規を中心に学修する。看護職に関係するさまざまな法規について広く理解し、特に重要な事項については、整理して覚えるようにすること。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>看護職のための関係法規はすべての領域の看護学の科目と直接的または間接的に関連しているため、それらの科目と結び付けて学修すること。履修に必要な予備知識としては、特になし。</p>						
教科書			参考書・リザーブブック			
<p>書名：系統看護学講座 看護関係法令（健康支援と社会保障制度④） 著者名：森山 幹夫 出版社：医学書院</p>			<p>書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会</p>			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	法的根拠を認識して活動ができること。				○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	法的根拠を認識して活動ができること。				○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	法的根拠を認識して活動ができること。				○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	法的根拠を認識して活動ができること。				◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	法的根拠を認識して活動ができること。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。				◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				◎
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をとることができる。				○
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	50						100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5						15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10	10						20
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5	5						10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		10	10						20
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		10	10						20
	地域の健康危機管理能力		5	5						10
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力			5						5
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>看護職として、各種看護活動において法的根拠を理解し国民の保健医療福祉を向上させることができる。 時代背景と法律の密接な関係を理解する。</p>					<p>看護職が実施する看護活動と関係する法律が理解できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	1 法の概念 2 保健師助産師看護師法 3 看護師等の人材確保に関する法律	講義	この単元で学ぶ内容を予習し理解しておくこと	30
第2回 ／	1 医療法	講義	前回の復習と今回の予習をする	60
第3回 ／	1 医療関係資格法 2 医師法・歯科医師法 3 医療関係資格法、保健福祉関係資格法 4 医療を支える法等 小テスト1	講義、小テスト1	前回の復習と看護職関連法規の予習をする	60
第4回 ／	1 地域保健法 2 健康増進法 小テスト返却と解説	講義、小テスト返却と解説	前回の復習と今回の予習をする	60
第5回 ／	1 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 2 母子保健法	講義	前回の復習と今回の予習をする	60
第6回 ／	1 母体保護法 2 自殺対策基本法 3 がん対策基本法 4 肝炎対策基本法 小テスト2	講義、小テスト2	前回の復習と今回の予習をする	60
第7回 ／	1 難病法 2 歯科口腔保健の推進に関する法律 3 感染症法 小テスト返却と解説	講義、小テスト返却と解説	地域で生活する人々のための保健関連法規について広く理解する	60
第8回 ／	1 予防接種法 2 食品に関する法律 3 薬務法	講義	地域で生活する人々のための保健関連法規について広く理解する	60
第9回 ／	1 健康保険法 2 国民健康保険法 3 高齢者の医療の確保に関する法律 小テスト3	講義、小テスト3	地域で生活する人々のための保健関連法規について広く理解する	60
第10回 ／	1 介護保険法、 2 社会福祉法 3 生活保護法 テスト返却と解説	講義、小テスト返却と解説	予習復習をする	60
第11回 ／	1 児童分野の福祉に関する法律 2 高齢者分野の福祉に関する法律 3 障害者分野の福祉に関する法律 小テスト4	講義、小テスト4	予習復習をする	60
第12回 ／	1 労働法 ・労働基準法・労働安全衛生法 小テスト返却と解説	講義、小テスト返却と解説	予習復習をする	60
第13回 ／	1 労働法 ・労働者災害補償保険法 ・育児休業、介護休業等労働者の福祉に関する法律 ・雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律	講義	予習復習をする	60
第14回 ／	1 社会基盤整備に関する法律 ・男女共同参画社会基本法 ・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 2 環境法 小テスト5	講義、小テスト5	予習復習をする	60
第15回 ／	振り返りとまとめ 小テスト返却と解説	講義、小テスト返却と解説	最終回に当たりこの単元での学びについて振り返る	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	保健医療福祉行政論 I Theory of Health and Medical and Welfare I	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	保健医療福祉の行政の役割と機能の根拠を知りその活動の意義を学ぶ。保健医療福祉行政は、国の政策である基本的人権に基づく生存権の保証を確保するための行政である。人間の生命、健康、生活の問題に直結しており、行政が総合的に機能することで、人々が安心して一人ひとりの生活の場が保証される。保健医療福祉行政の場に関与する保健師は活動の法的根拠を知識として理解しておくことが必修である。本論では保健医療福祉制度の機能や保健医療福祉政策の変遷する背景について理解する。また個人をめぐる社会状況の変化に対応し、地域において住民と公衆衛生の視点で活動を展開するための政策・行政活動能力の基本的な知識・方法を学修する。
--------	--

キーワード	保健医療福祉行政 法的根拠 公衆衛生行政 保健師の役割	学修教育目標	①保健医療福祉行政の基礎的知識、地域の健康問題の解決に必要な社会資源開発や保健医療福祉サービスを評価、調整するための基礎的知識を理解する。 ②地方公共団体の保健医療福祉行政施策を計画策定、実施、評価のサイクルで実施するための基礎的知識を理解し、計画策定できる。 ③公衆衛生行政の歴史的流れを理解し、今後の課題や方向性、担うべき役割について理解する。 ④公衆衛生行政の各分野における保健師の役割と地域で活動するための基礎的な知識を理解する。
-------	--------------------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

公衆衛生分野で実際に業務を遂行する上で必要な各分野の基礎的知識を学ぶ機会となる。各単元の重要なポイントをノートすることを勧める。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

保健医療福祉行政のしくみや概要を理解しておく、3年次の在宅看護論実践実習または4年次の公衆衛生看護学実践実習に基礎的知識を生かすことができる。

教 科 書	参考書・リザーブドブック
書名：標準保健師講座 別巻1 『保健医療福祉行政論』 著者名：藤内 修二 著者代表 出版社：医学書院	書名：看護関係法令 著者名：森山 幹夫 出版社：医学書院 書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	地域の健康問題の解決に必要な社会資源開発や保健医療福祉サービスを評価、調整するための基礎的知識を理解する。	○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	地方公共団体の保健医療福祉行政施策の計画策定、実施、評価等の基礎的知識を理解する。	○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる 看護実践	公衆衛生行政の歴史的流れを理解し、今後の課題や方向性、担うべき役割について理解する。	○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	個人・家族の疾病対策を健康政策の視点で健康課題を捉える連続性について理解する。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する 看護実践	公衆衛生行政の各分野における保健師の役割と地域で活動するための基礎的な知識を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	公衆衛生行政の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	支援を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。	○
	③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に介入を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	対象の心身・社会的側面を踏まえた現状分析ができ、必要な健康問題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力	対象の状況の変化を捉えて、更に効果的な看護実践を展開できるよう新たな介入方法を提案できる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	指導場面やグループワークで自分の意見を相手が理解しやすいよう論理的に筋道を立てて伝えられる。	○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを引き出せるよう表情や相槌など聴く姿勢を配慮し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	○
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。	○
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考慮して責任ある模範となる行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	適切な人に援助を求める、ストレス解消をするなど、ストレスを成長の機会と捉えることができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場にたって、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		55	45						100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								
	特定の健康課題に対応する実践能力	5							5
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	10	25						35
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	5							5
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力	10							10
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力	10	20						30
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力	10							10
専門的自立と継続的な質の向上能力	5							5	
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
地方公共団体の保健医療福祉行政施策を計画策定、実施、評価のサイクルで実施するための基礎的知識を理解する。					保健医療福祉行政の基礎的知識、地域の健康問題の解決に必要な社会資源開発や保健医療福祉サービスを評価、調整するための基礎的知識を理解する。公衆衛生行政の各分野における保健師の役割と地域で活動するための基礎的な知識を理解する。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	はじめに 授業計画について(シラバス) 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み 保健医療福祉の行政	オリエンテーション(OHP) 講義 資料配布	次回講義の予習	30
第2回 /	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み 保健医療福祉の財政	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第3回 /	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み 公衆衛生に関する国際的な理念と活動	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第4回 /	保健医療福祉行政の変遷 公衆衛生政策の基盤形成	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第5回 /	保健医療福祉行政の変遷 公衆衛生政策の基盤形成	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第6回 /	保健医療福祉行政の変遷 新たな課題と政策の充実と発展	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第7回 /	保健医療福祉行政の変遷 政策の充実と転換	前回の要点確認 講義 資料提示(視聴覚教材使用) 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
第8回 /	保健医療福祉行政の変遷 政策の充実と転換	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第9回 /	小テストと解答	振り返りとまとめ（重要事項） 小テスト	授業の復習と次回講義の予習	60
第10回 /	保健医療福祉に関する制度 社会保障制度と公衆衛生行政 (定義、地域保健、社会福祉、医療、介護保険、学校保健、労働衛生、 環境行政等)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第11回 /	保健医療福祉に関する制度 地域保健の制度 (地域保健法基本指針、母子保健、成人、高齢者、精神、感染症等)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント) グループワーク	授業の復習と次回講義の予習	60
第12回 /	保健医療福祉に関する制度 社会福祉の制度 (法関係、実施機関、生活保護、児童福祉、母子福祉、障害者福祉、高 齢者福祉等)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第13回 /	保健医療福祉に関する制度 医療の制度 (医療サービス、施設、種類、保険診療、現状と今後の課題)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
第14回 /	保健医療福祉に関する制度 介護保険制度 (創設と見直しの経緯、法の体系、市町村の役割、居宅サービス事業 者、制度の見直し内容)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の重要項目についての総復習 試験の準備	60
第15回 /	保健医療福祉に関する制度 行政における保健師活動と期待される役割 (都道府県、政令市、市町村)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必修区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	保健医療福祉行政論Ⅱ Theory of Health and Medical and Welfare Ⅱ	2単位	選択	講義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>保健医療福祉の行政の役割と機能の根拠を知りその活動の意義を学ぶ。保健医療福祉行政は、国の政策である基本的人権に基づく生存権の保証を確保するための行政である。人間の生命、健康、生活の問題に直結しており、行政が総合的に機能することで、人々が安心して一人ひとりの生活の場が保証される。保健医療福祉行政の場に関与する保健師は活動の法的根拠を知識として理解しておくことが必修である。本論では保健医療福祉制度の機能や保健医療福祉政策の変遷する背景について理解する。また個人をめぐる社会状況の変化に対応し、地域において住民と公衆衛生の視点で活動を展開するための政策・行政活動能力の基本的な手法を学修する。</p>
--------	--

キーワード	保健医療福祉行政 法的根拠 公衆衛生行政 保健師の役割	学修教育目標	①保健医療福祉行政の基礎的知識、地域の健康問題の解決に必要な社会資源開発や保健医療福祉サービスを評価、調整するための基礎的知識を理解する。 ②地方公共団体の保健医療福祉行政施策を計画策定、実施、評価のサイクルで実施するための基礎的知識を理解し、計画策定できる。 ③公衆衛生行政の歴史的流れを理解し、今後の課題や方向性、担うべき役割について理解する。 ④公衆衛生行政の各分野における保健師の役割と地域で活動するための基礎的な知識から実践の手法を学ぶ。
-------	--------------------------------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>公衆衛生分野で実際に業務を遂行する上で必要な各分野の基礎的知識を学ぶ機会となる。各単元の重要なポイントをノートすることを勧める。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>保健医療福祉行政のしくみや概要を理解しておく、3年次の在宅看護論実践実習または4年次の公衆衛生看護学実践実習に基礎的知識を生かすことが出来、ひいては、政策・行政活動に対する活動の進め方に気づくことができる。</p>
--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：標準保健師講座 別巻1 『保健医療福祉行政論』 著者名：藤内 修二 著者代表 出版社：医学書院	書名：看護関係法令 著者名：森山 幹夫 出版社：医学書院 書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	地域の健康問題の解決に必要な社会資源開発や保健医療福祉サービスを評価、調整するための基礎的知識を理解する。	○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	地方公共団体の保健医療福祉行政施策の計画策定、実施、評価等の基礎的知識を理解する。	○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	保健医療福祉行政における今後の課題や方向性、担うべき役割について理解する。	○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	個人・家族の疾病対策を健康政策の視点で健康課題を捉える連続性について理解する。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	公衆衛生行政の各分野における保健師の役割と地域で活動するための基礎的な知識を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	公衆衛生行政の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	支援を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。	◎
	③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に介入を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	対象の心身・社会的側面を踏まえた現状分析ができ、必要な健康問題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力	対象の状況の変化を捉えて、更に効果的な看護実践を展開できるよう新たな介入方法を提案できる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	指導場面やグループワークで自分の意見を相手が理解しやすいよう論理的に筋道を立てて伝えられる。	◎
	② 傾聴力	相手の意見や考えを引き出せるよう表情や相槌など聴く姿勢を配慮し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	◎
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	適切な人に援助を求める、ストレス解消をするなど、ストレスを成長の機会と捉えることができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場にたって、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		41			29	30			100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	11			5	5			21
	特定の健康課題に対応する実践能力	10			5	5			20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	5							5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力	5			15	10			30
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力	5							5
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力				4	10			14
専門的自立と継続的な質の向上能力	5							5	
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
地方公共団体の保健医療福祉行政施策を計画策定、実施、評価のサイクルで実施するための基礎的知識や手法を理解する。				地方公共団体の保健医療福祉行政施策を計画策定、実施、評価のサイクルで実施するための基礎的知識を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 振り返りとまとめ（重要事項）	オリエンテーション(OHP) 講義 資料配布	次回講義の予習	30
	出席および参加意欲や態度			
第2回 /	保健医療福祉に関する制度 行政における保健師活動と期待される役割 (都道府県、政令市、市町村)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第3回 /	保健医療福祉行政の計画と評価 地方自治体の保健医療福祉計画(分野別各種計画) 自治体のモデルから学ぶ	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第4回 /	保健医療福祉行政の計画と評価 地方自治体の保健医療福祉計画(分野別各種計画) 地域特性の把握(地域診断)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第5回 /	保健医療福祉行政の計画と評価 地方自治体の保健医療福祉計画(分野別各種計画) 計画の推進と管理・評価	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第6回 /	保健医療福祉行政の計画と評価 地方自治体の保健医療福祉計画(分野別各種計画) 計画の推進と管理・評価(PDCAサイクル)	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第7回 /	公衆衛生看護活動の実際(地域診断から保健医療福祉計画の作成) 地域診断の実施	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第8回 /	公衆衛生看護活動の実際(地域診断から保健医療福祉計画の作成) 地域診断の実施	前回の要点確認 講義 資料提示(パワーポイント)	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第9回 /	公衆衛生看護活動の実際(地域診断から保健医療福祉計画の作成) 地域診断の実施	グループワーク 講義 資料提示	授業の復習と次回講義の予習	60
	作成された地域診断の資料			
第10回 /	公衆衛生看護活動の実際(地域診断から保健医療福祉計画の作成) 地域課題の明確化	グループワーク 講義 資料提示	授業の復習と次回講義の予習	60
	地域診断から導き出した課題の資料			
第11回 /	公衆衛生看護活動の実際(地域診断から保健医療福祉計画の作成) 課題解決に向けた活動計画の作成	グループワーク 講義 資料提示	授業の復習と次回講義の予習	60
	課題解決における活動計画表・図			
第12回 /	公衆衛生看護活動の実際(地域診断から保健医療福祉計画の作成) 課題解決に向けた活動計画の作成	グループワーク 講義 資料提示	授業の復習と次回講義の予習	60
	課題解決における活動計画表・図			
第13回 /	公衆衛生看護活動の実際 課題解決に向けた施策の報告会	グループワーク 講義 資料提示	授業の復習と次回講義の予習	60
	報告会に使用したパワーポイントなど			
第14回 /	公衆衛生看護活動の実際 課題解決に向けた施策とは	グループワーク 講義 資料提示	授業の復習と次回講義の予習	60
	出席および参加意欲や態度			
第15回 /	公衆衛生看護活動の実際 課題解決に向けた施策とは まとめ	講義 レポート 学習ノート作成	全授業の重要項目についての総復習	60
	出席および参加意欲や態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	社会福祉・保障論 Social Well-being and Social Security	1単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>健康で幸せに生活するため、また、疾病、失業、高齢、貧困などの事象に接したときも人間らしい生活を維持するため、社会保障や社会福祉という制度は必要不可欠なものである。</p> <p>そのためには、日本国憲法第25条で示される「健康で文化的な最低限度の生活」とは何か、常に考える必要がある。また、地域における保健活動を行う際にも、社会保障や社会福祉の諸制度を活用し、それを援助していかなくてはならない。</p> <p>本講義では、日本の社会保障、社会福祉制度の歴史と現状を把握し、福祉先進国といわれる国々との比較も行う。また、これからの社会保障のあり方の基礎と地域住民のための活力ある地域社会にするための方策を考察する。</p>
--------	--

キーワード	<p>福祉国家 少子高齢化 社会保障費用</p>	学修教育目標	<p>各国における社会保障成立の歴史的背景や現状を把握し、諸分野に対して包括的に理解することを目指す。日本の社会保障では医療保険、年金保険、介護保険、生活保護法及びその他の社会福祉の理解を深める。</p>
-------	----------------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>厚生労働省の推計では2025年度社会保障給付費の総額は151兆500億円となっている。その中を年金と医療が83%占めている。少子高齢化が益々深刻化している日本社会にはどのような政策が必要であるのか学修していく。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>特になし。</p>

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：社会福祉のあゆみ(社会福祉思想の軌跡) 著者名：金子 光一 出版社：有斐閣</p>	<p>書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	現代社会における様々な課題を把握することが出来る。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	経済社会において起きうる様々な課題に対する分析に取り組むことが出来る。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	報告や資料収集に対する注意力を向上することが出来る。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	プレゼンテーションを通して他人に対して自分の意見を丁寧に伝達することが出来る。	○
	② 傾聴力	他人からの発言を丁寧に受け止めることが出来る。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	現代社会における人間の役割を考えることが出来る。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力				20				10	30
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力		50			20				
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
日本の経済事情をしっかりと把握し少子高齢化社会における様々な課題を学修する。					少子高齢化に伴う年金や医療を始め社会保障の基本的な課題を学修する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	社会福祉・保障制度の歴史	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第2回 /	社会福祉・保障制度の成立の背景（西洋）	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第3回 /	社会福祉・保障制度の成立の背景（日本）	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第4回 /	日本の社会福祉・保障制度（1） - 少子高齢社会と社会保障との関係 -	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第5回 /	日本の社会福祉・保障制度（2） - 医療保険制度 -	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第6回 /	日本の社会福祉・保障制度（3） - 年金保険制度 -	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第7回 /	日本の社会福祉・保障制度（4） - 介護保険制度 -	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第8回 /	日本の社会福祉・保障制度（5） - 公的扶助制度 -	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	障がい者福祉論 Policy of Persons with Disabilities	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>今日社会福祉改革により障がい者福祉制度も新たな改革が求められている。 この講義では障がい者福祉の法制度、雇用、就労、生活環境及び収入そして権利擁護の諸問題について、正しい理解を得ることを学修していく。</p>					
キーワード	<p>ノーマライゼーション 障害者自立支援法 バリアフリー</p>	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者、知的障がい者、精神障がい者等の種々の障害について正しい知識を持ちバリアフリーとはどういうことかを学ぶ。 ・ノーマライゼーションとは何か、そしてノーマライゼーションの実現に向けて福祉の領域でどのような取り組みがなされているのかを学修する。 ・障がい者を支援する上で重要なことは何かを学修する。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>今日「障害も一つの個性」としてとらえている現状のなか、日本では障がい者に対してどのような政策が行われているのかみんなで一緒に考える。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>特になし。</p>						
教 科 書				参考書・リザーブドブック		
なし				なし		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	共生とは何かを学修することが出来る。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら社会問題に対する分析に取り組むことが出来る。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	報告や資料収集に対する注意力を向上することが出来る。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	プレゼンテーションを通して他人に対して自分の意見を丁寧に伝達することが出来る。				○
	② 傾聴力	プレゼンテーションを通して他人に対して自分の意見を丁寧に伝達することが出来る。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	社会的な弱者と共生する意味を深く考えることが出来る。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力				20					20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								10	10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力		50			20				
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
障がい者制度の歴史的な展開と日本における障がい者政策の現状をしっかりと把握する。					障害者支援法を起点に日本の障がい者政策の変化を学修する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	障がい者福祉をなぜ学ぶのか	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第2回 /	社会福祉制度の本質 I	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第3回 /	社会福祉制度の本質 II	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第4回 /	社会福祉法 I	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第5回 /	社会福祉法 II	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第6回 /	日本の障がい者福祉法（制度） I	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第7回 /	日本の障がい者福祉法（制度） II	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第8回 /	日本の障がい者の実態 I	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第9回 /	日本の障がい者の実態 II	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第10回 /	障がい者の雇用・収入の現状 I	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第11回 /	障がい者の雇用・収入の現状 II	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第12回 /	障がい者に対する施策 I	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第13回 /	障がい者に対する施策 II	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第14回 /	障がい者自立支援法	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120
第15回 /	日本の障がい者制度の課題と展望	講義・質疑応答	予習：60分、復習：60分	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	衛生・公衆衛生学 Hygiene and Public Health	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>組織された地域社会の努力を通して、人々を疾病から守り、健康を保持・増進させるため、医学を含めた自然科学および関連する社会科学諸分野の手法を駆使して、人間社会の健康上の諸問題を解決することを目指す学問である公衆衛生学の概念と方法論を学ぶ。</p> <p>「健康」「予防」とその指標、人間を取り巻く自然・環境の様々な要因が集団や個人の健康に及ぼす影響などについて、疾病予防やヘルスプロモーションへのアプローチの方法等を踏まえ習得する。また、日本国内だけでなく世界にも目を向け、広く保健・医療・福祉のシステムの理解を目標に講義を行う。さらに、「集団の健康」について考え、それをよりよくするための課題を整理し、解決方向を見出す能力を持つことも目標とする。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	衛生 公衆衛生 健康 疾病予防	学修教育目標	1. 公衆衛生学の基本的な概念が理解できる。 2. 「健康」と「予防」の意味とその指標が理解できる。 3. ヘルスプロモーションの概念とアプローチの方法が理解できる。 4. 公衆衛生の諸分野の概要が理解できる。			
-------	--------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>衛生・公衆衛生の概念と方法論として、集団の健康や疾病予防について人間を取り巻く環境系を含めた公衆衛生学の基本的な知識を解説する。授業の前半、後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施する。最終の授業では、集団の健康の保持・増進に関する課題として、疾病予防のあり方についてレポートをまとめる。復習では、授業毎のノートを整理し教科書の内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業や質疑応答の機会に積極的な質問を行い、知識の理解に努めることが望ましい。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「疫学」や「保健統計学」、「公衆衛生看護学概論Ⅰ」、「学校保健論Ⅰ、Ⅱ」、「産業保健論Ⅰ、Ⅱ」、「健康教育論」と関連し、人の健康生活と保健領域および総合看護学Ⅱ領域における科目の学修内容を理解するための基礎となる。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 著者名：神馬 征峰 出版社：医学書院	書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	集団の健康の保持・増進の考え方として、公衆衛生における疫学や疾病予防の方法論、ヘルスプロモーションの概念を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	授業内容から学修課題を抽出し、課題の解決に取り組むことができる。	○
	② 計画力	授業内容や自身の学修課題を考え、課題に対して計画的な学修を実施することができる。	○
	③ 創造力	他の科目との関連性を見出し、衛生・公衆衛生学に関する知識の理解を深めることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		55	20	10				15	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	35	10	5					50
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								
	特定の健康課題に対応する実践能力	20	10	5					35
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								
	専門職者として研鑽し続ける基本能力							15	15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を十分に理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上を満たしている。					衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を理解している。 各項目の理解度が60%~80%である。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	公衆衛生学概論 ①公衆衛生の概念 ・衛生学と公衆衛生学 ・健康とは ②公衆衛生の歴史	講義と質疑応答	復習：衛生学と公衆衛生学との違い、公衆衛生の概念と歴史を整理し、健康と環境との関係について復習する。	60
	授業の出席、受講態度を評価		予習：健康の指標や人口に関する統計指標と健康寿命の意味について予習する。	90
第2回 /	健康の指標 ①人口動態統計と人口静態統計 ②健康状態と受療状況 ③生命表と健康寿命	講義と質疑応答	復習：人口動態と人口静態との違いを整理し、健康状態と受療状況の現状、健康寿命に関連する新しい指標の意味について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：疫学や予防医学をはじめとした公衆衛生活動の主な内容について予習する。	60
第3回 /	疫学的方法、予防医学 ①疫学 ②健康の多要因と予防医学	講義と質疑応答	復習：公衆衛生学の主要な活動として、疫学的研究方法や予防医学の意味と社会における役割について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：人間を取り巻く環境や環境要因の分類について予習する。	60
第4回 /	環境保健 ①人間の環境 ②環境要因 ③公害と環境問題	講義と質疑応答	復習：人間と環境の関連について整理し、環境要因の分類や公害と環境問題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：近年の感染症の動向とその予防方法について予習する。	60
第5回 /	感染症とその予防 ①感染症とは、感染症の予防 ②感染症法 ③主要な感染症	小テスト 講義と質疑応答	復習：主要な感染症とその動向を整理し、予防対策に関わる感染症法について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：身の回りの食品の安全性や衛生管理、栄養摂取の現状について予習する。	60
第6回 /	食品保健と栄養 ①食品と健康、食中毒 ②食品の安全性の確保 ③栄養の現状	講義と質疑応答	復習：食品の安全と食中毒との関係について食品衛生管理の在り方を復習する。	90
	授業の出席、受講態度、小テストを評価		予習：健康教育の現状と課題として、ヘルスプロモーションの意味について予習する。	60
第7回 /	健康教育とヘルスプロモーション ①健康教育とは ②ヘルスプロモーションとは	講義と質疑応答	復習：健康教育の主な内容を整理し、ヘルスプロモーション活動の推進方法について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：健康日本21の内容と生活習慣病予防が健康の保持に果たす役割について予習する。	60
第8回 /	生活習慣病 ①生活習慣病の現状 ②健康日本21と健康増進法 ③健康と栄養 ・運動 ・休養 ・たばこ	講義と質疑応答	復習：生活習慣病の主な内容と危険因子、健康増進法等の法令の変遷について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：国内外の医療制度や高齢者の保健、介護の問題について予習する。	60
第9回 /	医療の制度、高齢者医療 ①医療保障と医療保険、公費医療 ②高齢者保健と介護保険	講義と質疑応答	復習：医療制度の現状を整理し、高齢者保健と介護保険のもつ意味とその課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：地域における保健活動や医療サービスの提供体制について予習する。	60
第10回 /	地域保健活動 ①地域保健法と理念 ・医療サービスの提供体制 ②地域保健活動 ③救急・災害医療	講義と質疑応答	復習：地域保健の主要な活動と体制、地域における救急・災害医療の内容と課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：母子保健を構成する統計指標と保健施策について予習する。	60
第11回 /	母子保健 ①母子保健の統計 ②母子保健施策	小テスト 講義と質疑応答	復習：母子保健の施策の内容と変遷、女性の健康支援のための現状と課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度、小テストを評価、		予習：学校保健の関係法令、保健管理や感染症予防について予習する。	60
第12回 /	学校保健 ①学校保健とそれを支える関係法令 ②学校における保健管理、感染症予防、環境衛生 ③学校給食と食育	講義と質疑応答	復習：学校保健を支える養護教諭の役割や保健管理、環境衛生の在り方を整理し、食育の重要性について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：職業病や労働環境、労働衛生管理と健康状態との関係について予習する。	60
第13回 /	産業保健 ①労働環境と労働衛生管理 ②作業関連疾患とその予防、対策 ③トータルヘルスプロモーション	講義と質疑応答	復習：労働者の作業環境や衛生管理、新たな職業病の名称とその予防対策、職場における取り組みの在り方について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：精神医療の歴史や関連する制度、国際的な保健医療の現状と課題について予習する。	60
第14回 /	精神保健福祉、国際保健 ①精神医療の歴史 ②精神保健福祉の諸制度と課題 ③国際保健の現状と課題 ④国際保健の担い手	講義と質疑応答	復習：精神保健福祉における医療制度の変遷と現状、将来へ向けての課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度、レポートを評価		国際保健の現状や医療制度を整理し、今後の国際保健医療の課題について復習する。	60
第15回 /	衛生・公衆衛生学としての総括	講義と質疑応答	復習：衛生・公衆衛生学で学習してきた知識やそれぞれの課題を整理し、公衆衛生の諸分野の概要を理解する。	90
	授業の出席、受講態度、レポートを評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	疫学 Epidemiology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>疫学は集団の健康事象（疾病と健康）を記述し、これに関連する要因を発見しその要因への介入により疾病の発生と予防することを目的とした学問である。地域保健の基礎を形成する領域であり深く理解することが必要である。疫学は19世紀イギリスのコレラからはじまり、近年の新興感染症研究に至っているが、感染症のみに限らず生活習慣病の原因究明と介入に寄与している。</p> <p>本講義では、疫学の定義と歴史を学び、疫学で扱う基本的な指標、手法を理解するとともに、その実践例を学習する。また、その際の倫理的な問題点も理解し、看護研究や地域保健に応用できるような運用力も育成する。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	疾病と生活の関連 生物統計と病气	学修教育目標	1. 疫学の基本的な歴史と概念、考え方を習得できる。 2. 罹患率、有病割合、死亡率などの疫学に関する基礎的なデータの取り扱い方法を身につけることができる。 3. コホート研究や症例対照研究などの疫学研究の方法およびエビデンスについて理解し、運用できるようになる。 4. 各種疾病の疫学について理解することができる。			
-------	---------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

様々な病气について、その原因や経過を探ることが疫学の基本と言える。様々な情報を用いて病気を社会的に解明するために、幅広い知識を統合・融合させる必要が有る。過去の疫学研究を知り、どのような情報をもとに疾病の真実に迫ったのかを考えられるように「柔らかい頭」を持つようにしてほしい。身の回りに起こるすべての事象について、なぜこの事象が起こったのかを常に考える癖をつけておいてほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会保障論・統計学・医療概論・微生物学						
---------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：疫学・保険統計学 第3版 著者名：牧本 清子・尾崎 米厚 他 出版社：医学書院			書 名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	健康被害につながる科学的な根拠を見つけることができる。				◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく主体的に参加する。				◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	全ての健康問題には原因があることを理解する。				◎
	② 計画力	健康問題解決能力をみにつける。				◎
	③ 創造力	新興感染症等の疫学について興味を持てる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				○
	③ 柔軟性	時には過去の常識すらも疑い、真実を追求できる。				◎
	④ 状況把握力	氾濫する情報の中から必要な情報を選ぶことができる。				◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				△

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25					20	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								5	5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15	5					3	23
	特定の健康課題に対応する実践能力		15	5					3	23
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		13	3						16
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								2	2
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		2	2						4
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								2	2
	地域の健康危機管理能力		2	2						4
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								5	5
	専門的自立と継続的な質の向上能力		8	8						16
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幅広い知識を統合・融合させることで、病気に関連する科学的な根拠を探し出すことが出来、健康問題解決のための方法を導き出すことが出来る。					疫学の基本的な歴史と概念が理解でき、罹患率、有病割合、死亡率などの疫学に関する基礎的なデータの取り扱いが出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	疫学概念・集団の健康状態の把握 疫学とは何か 疾病の頻度の指標	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：指標としての比、割合、率の違いや求め方を示すことができる。	60
第2回 /	第1回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	疫学概念・集団の健康状態の把握 曝露効果の指標	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：罹患率、リスク比、オッズ比、寄与危険（度）の違いや求め方を示すことができる。	60
第4回 /	第3回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	疫学的研究方法 対象集団の選定 研究デザイン	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：研究デザインの違いについて示すことができる。	40
第6回 /	第5回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	疫学的研究方法 誤差・偏り 交絡とその制御・疫学における因果関係の立証	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：誤差、精度、妥当性、偏り、交絡について語る ことができる。	40
第8回 /	第7回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	疾病の予防トレーニングスクリーニング アウトブレイク時の疫学調査 スクリーニングの目的・要件・評価	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：スクリーニング検査による感度、特異度の 違いや求め方を示すことができる。	40
第10回 /	第9回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	60
第11回 /	疾病登録 疾病登録の意義と目的・各疾患登録 主な疾患の疫学	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：疾患登録による発生状況や特徴を語る ことができる。	60
第12回 /	第11回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	60
第13回 /	第3回目の学習の問題と解答方法 小テスト	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	疫学のまとめ 全体の復習	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	疫学のまとめ 全体の復習	講義	授業の復習	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 人の健康生活と保健	保健統計学 Health Statistics	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>「喫煙者は非喫煙者に比べて、肺がんになりやすい」という事実はもはや常識であるが、これはどのように「比較」されているのだろうか。その他にも、医学・看護学領域には、臨床検査の値や血圧の値など、多種多様の「データ」が存在するが、これらを正しく収集し、整理し、解析しないと使い物にならなくなってしまふ。また、観察や実験、調査で得られたデータを比べる際、それらを単に見比べるだけでなく、統計的手法を用いて比較しなければならない。また、人口構成と疾病構造、保健医療、福祉に関する基本的統計から、健康や保健医療にかかわる課題に関する情報について説明できる。ここに保健統計学という分野が必要となる。</p> <p>本講義では、統計学の基礎を基本的に学んでいることを前提に、保健領域、看護領域でよく用いられる統計手法を学び、看護研究や卒業研究に役立つ保健統計学を学ぶことを目指す。</p>					
	キーワード	病気と分布 記述疫学 衛生動向	学修教育目標	<p>1. 保健統計学で用いるデータを記述する方法と検定の概念について理解できる。 2. 集計と統計の違いを理解し、標準偏差や分散分析などの基本的な統計手法が理解できる。 3. 座学で学んだ保健統計学の知識を、Microsoft Excel を用いて自身で活用できるようになる。</p>		

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>授業前半では、基礎的な統計学を振り返りながら、保健統計学のデータを用いて解析をする準備段階とする。そのため、自らの目の前にあるデータがどのような性質のデータであるかを理解しどのような解析が可能かを考えられる能力を涵養する。授業後半は実際に処理された保健統計データをどのように読み解いていくかを学び、これから起こりうる保健統計事例を推測できるように、「モノを考える」能力を養っていただきたい。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

統計学・疫学・医療概論						
-------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：公衆衛生がみえる 著者名：今村知明ほか 出版社：メディックメディア			書 名：標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学 著者名：牧本 清子・尾崎 米厚 他 出版社：医学書院			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	保健統計データから健康問題を読み取り解決能力を身に着けることが出来る。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				○
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	データから問題を見つけることが出来る。				◎
	② 計画力	見つけた問題を科学的に説明できる。				◎
	③ 創造力	今題解決に向けた方向性を考えることが出来る。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				○
	③ 柔軟性	氾濫するデータから、問題点を見つけることが出来る。				◎
	④ 状況把握力	正確な情報把握のためにデータを選択できる。				◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		25				20	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15		5				5	25
	特定の健康課題に対応する実践能力		7		5				3	15
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5		3				3	11
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		7		2				2	11
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力		7		2				2	11
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力		14		8				5	27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>氾濫する健康データの中から、正しく収集、整理、解析して健康問題を見つけ出すことが出来る。</p>					<p>集計と統計の違いについて理解する。保健統計から、疾病の地域間格差や世代間格差について気づくことが出来、問題意識につなげることが出来る。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	保健統計とは 保健分野に関連する統計について 統計学の基礎（1） データとは 質的データと量的データ	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第2回 /	統計学の基礎（2） データ収集の方法 データの分類	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第3回 /	統計学の基礎（3） 1変数についての解析（1） 変数、分布の代表値	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第4回 /	統計学の基礎（4） 1変数についての解析（2） 分布の散布度、母平均値の推定	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第5回 /	統計学の基礎（5） 1変数についての解析（3） 割合、母割合、母平均の検定	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第6回 /	統計学の基礎（6） 2変数についての解析（1） 相関図と相関係数	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第7回 /	統計学の基礎（7） 2変数についての解析（2） 順位データの相関係数、相関係数の特徴と注意点	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第8回 /	統計学の基礎（8） 2変数についての解析（3） クロス集計、標準偏差、分散、各種検定	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：1年次履修済み「統計学」を復習し、保健統計の基礎について理解する。	60
	コメントシート			
第9回 /	保健統計概要 人口動態統計 人口動態統計と生命表	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
	コメントシート			
第10回 /	保健統計調査（1） 国勢調査、患者調査、国民生活基礎調査、学校保健統計 疾病・障害の定義と分類 国際疾病分類 ICD	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
	コメントシート			
第11回 /	保健統計調査（2） 国勢調査、患者調査、国民生活基礎調査、学校保健統計 疾病・障害の定義と分類 国際疾病分類 ICD	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
	コメントシート			
第12回 /	保健活動と統計調査（1） 地域保健、健康増進事業報告	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
	コメントシート			
第13回 /	保健活動と統計調査（2） 国民健康・栄養調査	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
	コメントシート			
第14回 /	保健活動と統計調査（3） 食中毒統計、感染症統計 感染症発生動向調査	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
	コメントシート			
第15回 /	まとめ 授業全体の総合的な確認	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	病理学 Pathology	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	看護学を实践していく上で必要となる病理学的な知識、すなわち疾病の原因と病態を理解した上で、各疾患に対する治療についての基礎知識を理解する。	
	キーワード 病態生理 疫学 予防 治療	学修教育目標 疾患の病態生理を理解するにあたっては、ただの暗記では不可能であり、実践的でもない。生体の正常構造・機能と常に比較して、疾病の構造・病態生理を論理的に把握することを達成目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

まず、疾病とは何か、なぜ生じるのか、それに伴い細胞レベル、組織・臓器レベル、個体レベルでどう変化するのかを理解してもらう。また、扱う疾患は多岐にわたるが、常に正常との比較をし、どのように変化しているのかを理解してもらう。授業で使用するレジュメはe-learningで公開しており、学内外で学習できるため、特に授業後の復習を重点的に行い疑問点は解決しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

疾病論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの理解につながる。また、解剖学・生理学・微生物学など、他の基礎教科を復習するよい機会になる。授業ではタブレット端末を使用する。

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進① 著者名：大橋 健一／谷澤 徹／藤原 正親／柴原 純二 出版社：医学書院	「看護師・看護学生のためのなぜ?どうして?」シリーズ(Medic Media)等は疾患のアウトラインを掴むのに読みやすい本と思います。また、病棟で働く現場の看護師には、「病気がみえる」シリーズ(Medic Media)が好評な印象があります。
---	---

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	正常と比較し、疾病の病態生理を理解する。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	学生から積極的に調べても分からない部分を指導者や医師に質問することができる。	◎
	② 働きかけ力	教員から助言を引き出すことができる。	○
	③ 実行力	自ら積極的に調べる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにできる。	○
	② 計画力	日々の学習を計画的に進めることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	学習成果をチームで共有する。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	医療従事者としての倫理観を持つ。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	25	25					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5	5					20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5	3	3					11
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	5	5					20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5	2	2					9
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	5	5					20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力		10	5	5					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
主要疾患のみならず、医療現場で時折遭遇する疾患に関しても、病態生理とそれに基づく治療や予防を理解している。					病院実習や国家試験に合格できる程度に疾患を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義・レポート	病理学とは	15
第2回 /	病理学で学ぶこと 看護と病理学、病気の原因、疾病の分類 代謝障害 細胞の損傷と適応、物質沈着、脂質代謝異常と疾患 小テスト	講義・レポート	細胞の損傷・変化に関して	60
第3回 /	代謝障害 タンパク質代謝異常と疾患、糖代謝異常と疾患、その他の代謝障害と疾患 小テスト	講義・レポート	糖尿病・脂質代謝異常に関して	60
第4回 /	循環障害 循環器系の概要、局所性の循環障害 小テスト	講義・レポート	循環障害による細胞・組織の変化に関して	60
第5回 /	循環障害 全身性の循環障害 小テスト	講義・レポート	ショック・DICに関して	60
第6回 /	炎症と免疫、膠原病 炎症、炎症の各型、免疫 小テスト	講義・レポート	炎症・免疫・アレルギーのメカニズムに関して	60
第7回 /	炎症と免疫、膠原病 アレルギーと自己免疫疾患、膠原病、移植と免疫 小テスト	講義・レポート	自己免疫疾患とアレルギー疾患に関して	60
第8回 /	感染症 病原体と感染症、宿主の防御機構、おもな病原体と感染症	講義・レポート	病原体・感染性疾患に関して	60
第9回 /	感染症 感染症の治療、感染症の予防 小テスト	講義・レポート	抗菌薬・ワクチンに関して	60
第10回 /	老化と死 細胞の老化と個体の老化、加齢に伴う諸臓器の変化 小テスト	講義・レポート	細胞・組織における老化に関して	60
第11回 /	先天異常と遺伝子異常 先天異常とは、遺伝子異常、染色体異常による疾患 小テスト	講義・レポート	染色体・遺伝子に関して	60
第12回 /	先天異常と遺伝子異常 遺伝性疾患、胎児の障害、先天異常・遺伝性疾患の診断 小テスト	講義・レポート	先天性疾患に関して	60
第13回 /	腫瘍 腫瘍の定義と分類、腫瘍の発生病理 テスト	講義・レポート	腫瘍のメカニズムに関して	60
第14回 /	腫瘍 悪性腫瘍の転移と進行度、腫瘍の診断と治療、腫瘍の統計 テスト	講義・レポート	腫瘍の治療に関して	60
第15回 /	総括	講義	全体を通して、質疑応答と補足を行う。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	薬理学 Pharmacology	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	疾病の治療、予防および診断の目的で用いられる薬物（化学物質）が生体にどのように働き、どのような影響を及ぼすかを明らかにする薬理学の知識は看護職者にとって不可欠である。本教科では、薬物の作用機序、生体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）、副作用、毒性、薬物併用による相互作用、使用の際の注意事項などを理解することを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	薬が作用するしくみ（薬力学） 薬の体内の挙動（薬物動態学） 薬物相互作用 薬物使用の有益性と危険性 薬と法律	学修教育目標	1) 薬物の作用機序・特徴および生体に及ぼす諸作用を理解する。 2) 臨床における薬物治療の基礎知識を習得する。
-------	--	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

薬理学の基礎知識をまず習得し、抗感染薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬、末梢での皮膚科用薬・眼科用薬神経活動に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物、心臓・血管系に作用する薬物、呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物、物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、消毒薬などについて学修する。多くの薬物について理解し、覚える必要があるので必ず、予習・復習を欠かさないようにしてください。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

薬物治療や疾病の予防に関する知識は、看護学部のすべての領域で必要とされるものであるため、正しく理解し習得して下さい。薬理学は大学で初めて習う科目であるため、予備知識や技能はそれほど必要ありませんが、解剖生理学の知識や計算能力は身につけておいて下さい。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 著者名：吉岡 充弘／泉 剛／井関 健／横式 尚司／菅原 満 出版社：医学書院	書名：今日の治療薬 2024 著者名：伊豆津 宏二 編集 出版社：南江堂

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	さまざまな年代の人々に対する薬物治療や疾病予防に関する知識をよく理解し習得すること。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	疾病予防や薬物治療に関する知識をよく理解し習得すること。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	健康管理や疾病予防に関する薬物の知識をよく理解し習得すること。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	○
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。	○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	25	10				10	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
すべての薬物の作用機序・特徴および生体に及ぼす諸作用を理解し、また臨床における薬物治療の知識を習得していること。					薬物の作用機序・特徴および生体に及ぼす諸作用を理解し、また臨床における薬物治療の基礎知識を習得していること。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1部 薬理学総論 第1章 薬理学を学ぶにあたって 薬物治療と看護 薬理学とはなにか	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第2回 /	第2章 薬理学の基礎知識 薬が作用するしくみ（薬力学） 薬の体内動態（薬物動態学） 薬物相互作用 薬効の個人差に影響する因子 薬物使用の有益性と危険性 薬と法律 物質としての薬物の分類	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	第2部 薬理学各論 第3章 抗感染症薬 感染症治療に関する基礎事項 抗菌薬 抗真菌薬・抗ウイルス薬・ 抗寄生虫薬 感染症の治療における問題点	講義	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第4回 /	第4章 抗がん薬 がん治療に関する基礎事項 抗がん薬の種類	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	第5章 免疫治療薬 免疫系の基礎知識 免疫抑制薬 免疫増強薬・予防接種薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第6回 /	第6章 アレルギー薬・抗炎症薬 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 抗炎症薬 関節リウマチ治療薬 痛風・高尿酸血症治療薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物 神経系による情報伝達と薬物 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第8回 /	第8章 中枢神経系に作用する薬物 中枢神経系のはたらきと薬物 全身麻酔薬 催眠薬・抗不安薬 抗精神病薬 抗うつ薬・気分安定薬 パーキンソン症候群治療薬 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬 片頭痛治療薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	第9章 循環器系に作用する薬物 降圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 利尿薬 脂質異常症治療薬 血液凝固系・線溶系に作用する薬物 血液に作用する薬物	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第10回 /	第10章 呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物 消化器系に作用する薬物 生殖器・泌尿器系に作用する薬物	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第11回 /	第11章 物質代謝に作用する薬物 ホルモンとホルモン拮抗薬 治療薬としてのビタミン	講義	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第12回 /	第12章 皮膚科用薬・眼科用薬 皮膚に使用する薬物 眼科用薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第13回 /	第13章 救急の際に使用される薬物 救急に用いられる薬物 急性中毒に対する薬物	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	第14章 漢方薬 漢方医学の基礎知識 漢方薬各論	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	第15章 消毒薬 消毒薬とは 消毒薬の適用 付章 輸液製剤・輸血剤	講義	授業の復習	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	微生物学 Microbiology	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	看護師は医師以上に患者と接触する機会が多い。従って、常に自身が感染症に罹患したり、媒介したりするリスクに晒されている。このリスクを最大限に減らすことが求められる。このために日常業務での感染に対する注意意識、滅菌・消毒などによる感染予防、患者への保健指導などが重要である。そのために病原微生物の性質など微生物学の基本的な知識を知り、的確な行動ができるようになることが目的である。
--------	--

キーワード	微生物、病原微生物、感染、発症、滅菌、化学療法	学修教育目標	学修目的を達成するために、病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。
-------	-------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

微生物とヒトとの係わり、微生物の性質、感染と感染症、感染に対する生体防御機構、感染症の検査・診断・治療、感染症の予防、感染症の現状と対策、感染症の疫学、細菌と疾患、主なウイルス性疾患 真菌感染症と原虫感染症などについて学修する。病原微生物についてそれぞれの特徴と違いを整理して理解すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

疾病論、薬理学、および感染症と係わりのある看護の全7領域と関連がある。予備知識としては、生物学が必要である。
--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進（4） 微生物学 著者名：南嶋 洋一、吉田 真一 出版社：医学書院	書名：シンプル微生物学 著者名：東 匡伸、小熊 恵二 出版社：南江堂 書名：はじめの一步のイラスト感染症・微生物学 著者名：本田 武司 編 出版社：羊土社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”(学修)を進めることができる。	◎
	③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。	△
	③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	○
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	○
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		55	25	20					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	30	10	10					50
	特定の健康課題に対応する実践能力	10	5	5					20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	10	5	5					20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	5	5						10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
<p>病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を護る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律を理解し、看護の実践に活かすことができる。</p>					<p>病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を護る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律を理解できる。</p>				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	微生物とヒト	講義	予習	30
第2回 /	微生物の性質—構造・増殖など（1）	講義	復習・予習	30
第3回 /	微生物の性質—構造・増殖など（2）	講義	復習・予習	30
第4回 /	微生物の性質—構造・増殖など（3）	講義 小テスト	復習・予習	30
第5回 /	感染と感染症	講義	復習・予習	30
第6回 /	感染に対する生体防御機構（1）	講義	復習・予習	30
第7回 /	感染に対する生体防御機構（2）	講義	復習・予習	30
第8回 /	感染に対する生体防御機構（3）	講義 小テスト	復習・予習	30
第9回 /	感染症の検査・診断・治療	講義	復習・予習	30
第10回 /	感染症の予防	講義	復習・予習	30
第11回 /	感染症の現状と対策	講義 小テスト	復習・予習	30
第12回 /	感染症の疫学	講義 小テスト	復習・予習	30
第13回 /	病原微生物各論（1）細菌と疾患、真菌および原虫感染症	講義	復習・予習	30
第14回 /	病原微生物各論（2）細菌と疾患、真菌および原虫感染症	講義	復習・予習	30
第15回 /	病原微生物各論（3）主なウイルス性疾患	講義	復習と全体のまとめ	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	疾病論 I Diseases I	2単位	必修	講義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	本講座では主に成人の疾病・病態を扱う。 看護学を实践していく上で必要となる病理学的な知識を構築した上で、臓器別系統的視点から、各疾患の原因・病態・治療についての基礎知識を理解する。					
キーワード	病態生理 疫学 予防 治療	学修教育目標	疾患の病態生理を理解するにあたっては、ただの暗記では不可能であり、実践的でもない。 生体の正常構造・機能と常に比較して、疾病の構造・病態生理を論理的に把握することを達成目標とする。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
病理学に引き続き、扱う疾患は多岐にわたるが、常に正常との比較をし、細胞レベル、組織・臓器レベル、個体レベルでどのように変化しているのかを理解してもらう。 授業で使用するレジュメは e-learning で公開しており、学内外で学習できるため、特に授業後の復習を重点的に行い疑問点は解決しておくこと。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
疾病論Ⅱ、Ⅲとも関連して学習してほしい。 また、解剖学・生理学・微生物学など、他の基礎教科を復習するよい機会になる。 授業ではタブレット端末を使用する。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進① 著者名：大橋 健一／谷澤 徹／藤原 正親／柴原 純二 出版社：医学書院				「看護師・看護学生のためのなぜ?どうして?」シリーズ(Medic Media)等は疾患のアウトラインを掴むのに読みやすい本と思います。 また、病棟で働く現場の看護師には、「病気がみえる」シリーズ(Medic Media) が好評な印象があります。		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	正常と比較し、疾病の病態生理を理解する。				◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	学生から積極的に調べても分からない部分を指導者や医師に質問することができる。				◎
	② 働きかけ力	教員から助言を引き出すことができる。				○
	③ 実行力	自ら積極的に調べる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにできる。				○
	② 計画力	日々の学習を計画的に進めることができる。				◎
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	学習成果をチームで共有する。				○
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	医療従事者としての倫理観を持つ。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	25	25					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5	5					20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5	3	3					11
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	5	5					20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5	2	2					9
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	5	5					20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力		10	5	5					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
主要疾患のみならず、医療現場で時折遭遇する疾患に関しても、病態生理とそれに基づく治療や予防を理解している。					病院実習や国家試験に合格できる程度に疾患を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義・口頭発表	授業の復習および次回の講義の予習	60
第2回 /	循環器系の疾患 心臓の疾患 小テスト	講義	先天性心疾患・心不全・虚血性心疾患について	60
第3回 /	循環器系の疾患 心臓の疾患、血管の疾患 小テスト	講義	虚血性心疾患・弁膜症・大動脈の疾患について	60
第4回 /	血管・造血器系の疾患 骨髄および血液の疾患、リンパ系および脾臓の疾患 小テスト	講義	赤血球・白血球・血小板に異常をきたす疾患について リンパ系の疾患について	60
第5回 /	呼吸器系の疾患 鼻腔・咽頭・喉頭の疾患、気管・気管支・肺の疾患 小テスト	講義	上気道疾患について 閉塞性・拘束性肺疾患について	60
第6回 /	呼吸器系の疾患 気管・気管支・肺の疾患、胸膜の疾患 小テスト	講義	肺腫瘍・縦隔疾患について	60
第7回 /	消化器系の疾患 口腔・食道の疾患、胃の疾患 小テスト	講義	上部消化管の疾患について	60
第8回 /	消化器系の疾患 腸・腹膜の疾患、肝臓・胆管・胆嚢の疾患、膵臓の疾患 小テスト	講義	下部消化管の疾患について 肝胆膵の疾患について	60
第9回 /	腎・泌尿器・生殖器系および乳腺の疾患 腎・泌尿器系の疾患 小テスト	講義	腎・泌尿器の疾患について	60
第10回 /	腎・泌尿器・生殖器系および乳腺の疾患 生殖器系の疾患、乳腺の疾患 小テスト	講義	生殖器系および乳腺の疾患について	60
第11回 /	内分泌系の疾患 ホルモンとホメオスタシス、内分泌臓器の分布と機能、 小テスト	講義	内分泌疾患全般について	60
第12回 /	脳・神経・筋肉系の疾患 脳・神経系の疾患、筋肉系の疾患 小テスト	講義	脳血管疾患・変性/脱髄疾患・腫瘍について	60
第13回 /	骨・関節系の疾患 テスト	講義	骨・筋肉・関節の疾患について	60
第14回 /	耳・眼・皮膚の疾患 テスト	講義	感覚器臓器の疾患について	60
第15回 /	総括	講義	全体を通して、質疑応答と補足を行う。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	疾病論Ⅱ Diseases Ⅱ	2単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	主として母性および小児の疾病・病態を扱う。 妊娠・分娩・産褥期における母体ならびに胎児・新生児の生理ならびに疾病・病態に関する基礎的事項を中心に学ぶ。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	小児、新生児、母性	学修教育目標	現在、我が国の医療、特に小児医療は重大な困難に直面している。この時期に看護師のこの分野における役割は極めて大であると言っても過言ではない。小児疾病論については、まず、正常な児における身体的および精神的な発育・発達をよく理解した上で、小児疾患の病理について理解する。 母性については妊娠・分娩・出産について、理解し、知識を習得すること。新生児についての特徴・疾患についても同様である。			
-------	-----------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

小児看護学、母性看護学を講義形式・教材の配信で学習する。テーマによってはグループ学習を取り入れる。 事前に各回の授業内容の概要を公開するので、各自確認し授業ノートを準備しておくこと。また、各回の授業内で演習や課題を課すので自らの力で取組むこと。わからないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

小児看護学概論および援助論、母性看護学概論および援助論と密接な関連があり、相手（患者）のことを理解しようとする気持ちを身につける必要がある。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書		参考書・リザーブブック
書名：・系統看護学講座 「小児看護学概論・小児臨床 看護総論」 ・系統看護学講座 「小児臨床看護各論」 ・系統看護学講座 「母性看護学概論」 ・系統看護学講座 「母性看護学各論」 著者名： 出版社：医学書院	なし	

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	妊娠・分娩・出産・産褥期について理解し、胎児・新生児及び小児の疾病・病態についても理解できる。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	積極的に質問や相談および提案をすることができる。	○
	③ 実行力	計画したことを遂行することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。	◎
	② 計画力	課題解決のための適切な計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な思考や創造を展開することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	周囲にわかりやすく説明できる。	○
	② 傾聴力	相手の話をしっかり聞く。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見を取り入れる。	○
	④ 状況把握力	様々な状況を把握し、的確な判断ができる。	◎
	⑤ 規律性	チーム内における規律を尊重することができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	種々のストレスに対して対応できる力を培うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、すべての人々の人格を尊重することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	10	30				19	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		11						9	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15	5	15				5	40
	特定の健康課題に対応する実践能力		15	5	15				5	40
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
患者さん一人一人に応じた看護方針を立てることができる。					小児、母性疾患を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	小児科と母性のオリエンテーション 小児科総論 総論、正常新生児、成長、発達、栄養、保健、検査、治療、 症候と鑑別診断	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第2回 /	各論 疾患群 I 1 出生前疾患 2 新生児疾患 3 先天性代謝異常症	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第3回 /	疾患群 II 4 代謝性疾患 5 内分泌疾患 6 総合組織病と類似疾患	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第4回 /	疾患群 III 7 免疫、アレルギー性疾患 8 感染症 9 消化管疾患	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第5回 /	疾患群 IV 10 肝胆道・膵・腹膜疾患 11 呼吸器疾患 12 循環器疾患	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第6回 /	疾患群 V 13 血液疾患 14 腫瘍性疾患 15 腎泌尿器疾患	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第7回 /	疾患群 VI 16 神経疾患 17 運動器疾患 18 精神疾患	講義 小テスト	教科書（授業範囲）の一読（必須） 復習・テスト勉強	90
第8回 /	妊娠の生理 正常な妊娠の経過	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第9回 /	妊娠の病理 妊娠の異常、不妊症の原因と治療	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第10回 /	生殖補助医療 体外受精、胚移植法など	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第11回 /	分娩の生理 正常な分娩の経過	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第12回 /	分娩の病理 異常分娩の原因と治療	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第13回 /	産褥の生理と病理 産褥期の経過、疾患と治療	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第14回 /	新生児の生理と病理 新生児の生理と病理、新生児 ICU	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	90
第15回 /	まとめ 小児科学と産科学についてのまとめ	講義	今までの講義の復習・テスト勉強	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	疾病論Ⅲ Diseases Ⅲ	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	疾病論Ⅲでは、老年期の疾病・病態および精神障害の病理を扱う。 老年疾病論では、加齢と老人の精神的・身体的問題についての理解を深める。 精神障害の疾病論では、様々な精神障害の病理について理解を深める。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	老年医学、精神医学 プレゼンテーション グループワーク	学修教育目標	これらの疾病や障害について理解するだけでなく、類似の問題を有する患者および一般の患者に対しても、治療・介護を介した良好な対人関係を築くための基本的素養として身につけることができる。			
-------	-----------------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

老年医学、精神医学を講義形式・教材の配信で学習する。テーマによってはグループ学習を取り入れる。 事前に各回の授業内容の概要を公開するので、各自確認し授業ノートを準備しておくこと。また、各回の授業内で演習や課題を課すので自らの力で取り組むこと。 授業で使用するレジュメはe-learningで公開しており、学内外で学習できるため、特に授業後の復習を重点的に行い疑問点は解決しておくこと。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

老年看護学概論および援助論、精神看護学概論および援助論と関連があり、プレゼンテーション、グループ内でのコミュニケーション能力が必要となる。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：・系統看護学講座 「老年看護学」 ・系統看護学講座 「老年看護・病態、疾患論」 ・系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 ・系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 著者名： 出版社：医学書院	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	老年期の疾病や病態を理解するとともに、精神医学領域の疾病や病態についても理解できる。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	積極的に質問や相談および提案をすることができる。	○
	③ 実行力	計画したことを遂行することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。	◎
	② 計画力	課題解決のための適切な計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な思考や創造を展開することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	周囲にわかりやすく説明できる。	○
	② 傾聴力	相手の話をしっかり聞く。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見を取り入れる。	○
	④ 状況把握力	様々な状況を把握し、的確な判断ができる。	◎
	⑤ 規律性	チーム内における規律を尊重することができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	種々のストレスに対して対応できる力を培うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、すべての人々の人格を尊重することができる	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	10	30				19	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		11		15				9	35
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15	5					5	25
	特定の健康課題に対応する実践能力		15	5	15				5	40
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
老年期の疾病・病態および精神障害の病理を理解している。 発信力のあるプレゼンテーションができる。 チーム医療の大切さを実感する。					老年期の疾病・病態および精神障害の病理を病院実習や国家試験に合格できる程度に理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	精神障害の概念、分類 精神障害の概念の変遷と国際的分類	講義	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第2回 /	精神症状、状態像の捉え方 精神障害の諸症状と解釈	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第3回 /	精神作用物質による障害 アルコールや薬物に関連した障害	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第4回 /	統合失調症 統合失調症とその類縁疾患	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第5回 /	気分障害 躁うつ病、うつ病	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第6回 /	神経症性障害、ストレス関連障害など 恐怖神経症、パニック障害、PTSD など	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第7回 /	生理的障害など 摂食障害、睡眠障害、性機能不全など	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第8回 /	成人の人格および行動の障害 中間小テスト	講義 小テスト	教科書（授業範囲）の一読（必須） 小テスト対策	30-60
第9回 /	精神遅滞 精神発達遅滞	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第10回 /	加齢の概念 加齢に伴う諸問題について	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第11回 /	認知症 認知症の原因、症状、診断、治療について	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第12回 /	神経変性疾患 アルツハイマー型痴呆、パーキンソン病など	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第13回 /	老年性うつ病 老年期のうつ病について	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第14回 /	福祉と医療経済 老年医療についての諸問題	講義・レポート	教科書（授業範囲）の一読（必須）	30-60
第15回 /	まとめ 精神医学、老年医学についてのまとめ	講義 小テスト	今までの講義の復習・テスト勉強	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	生命・医療倫理学 Bioethics・Medical Ethics	1単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	現代医療の発展によってさまざまな倫理的判断の求められる問題が生じている。医療従事者として医療現場で生じるさまざまな問題に対処するための知識や考え方を学び、具体的場面への適用例を知ることで、患者の立場に立った医療とは何であるのかを考え、理解する。将来、医療現場で倫理的判断が求められる際に、根拠を持って倫理的判断できるようになる。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	倫理学、医療従事者、患者の立場、倫理的判断	学修教育目標	主要な現代医療の諸問題についての知識や考え方を習得することで、実際に何が問題であるか重要概念を用いて説明できるようになる。 主要な現代医療の問題に対して生命・医療倫理的判断を示し、その理由を説明できるようになる。 自らの考えを明確に表現し、それに対して適切な理由を述べるようになる。			
-------	-----------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

生命・医療倫理学の理論と基本概念、インフォームド・コンセントと患者の立場の尊重、尊厳死と安楽死、終末期医療と精神科医療の倫理、脳死と臓器移植、出生前診断と生殖医療、医療資源の配分などについて学修する。自らの考えを明確に表現し、それに対して適切な理由を述べるようにして下さい。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「倫理学」、「情報の倫理」「看護倫理学」						
----------------------	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：事例で学ぶケアの倫理 著者名：ナーシング・サプリ 編集委員会編 出版社：MC メディカ出版	書名：臨床倫理入門 著者名：日本臨床倫理学会監修、箕岡真子著 出版社：へるす出版 書名：よくわかる看護師の倫理綱領 第3版 著者名：峰村淳子・石塚睦子 出版社：照林社 書名：看護倫理 見ているものが違うから起こること 著者名：吉田みつ子 出版社：医学書院

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	医療従事者として医療現場で生じるさまざまな問題に対処できる。患者の立場に立った医療とは何であるのかを考え、理解することができる。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	△
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	△
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をとることができる。	◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		20				25	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		35		5				5	45
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5		5				5	15
	特定の健康課題に対応する実践能力		5						5	10
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5						5	10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5		5				5	15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
医療現場で倫理的判断が求められる際に、根拠を持って倫理的判断できる知識や考え方を修得できている。主要な現代医療の問題に対して生命・医療倫理的判断を示し、その理由を説明できる。					主要な現代医療の諸問題についての知識や考え方を習得していること。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	イントロダクション バイオエシックス（生命倫理学）・医療倫理学とは何か	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30
第2回 /	インフォームド・コンセントとは何か。 インフォームド・コンセントが困難な場合と患者の立場の尊重。 子供におけるインフォームド・コンセント。 日本看護協会「看護者の倫理綱領」	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30
第3回 /	生殖補助医療技術 出生前診断と人工妊娠中絶	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30
第4回 /	安楽死・尊厳死 安楽死の種類とその特徴。安楽死裁判の事例。 日本、海外における安楽死・尊厳死 脳死と臓器移植 臓器移植の歴史。臓器移植法の変遷。 臓器移植体制の整備。 再生医療	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30
第5回 /	学習課題に対する発表・討論	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30
第6回 /	病気と差別：HIV感染症など 難病を生きる。 自己決定と遺伝カウンセリング	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30
第7回 /	終末期医療（ターミナルケア、エンドオブライフケア）と精神科医療 終末期医療とホスピス。緩和ケア・医療と安楽死。 精神科医療における倫理。認知症ケア	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30
第8回 /	研究を進めるに当たって「配慮」すること 研究倫理指針の取り組み。 医療が患者に害をもたらすとき。 インシデント・アクシデント 練習問題、まとめ	講義	講義内容を踏まえて、これまでの看護学での学びを振り返る。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	臨床薬理学 Clinical Pharmacology	1単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	薬物療法における看護師の役割および薬物治療における看護師の役割拡大について理解し、各症状・各疾患の薬物療法に特化して、看護師が身につけておくべき基本知識を学び、患者の病態と疾患はもとより、患者が受ける薬物療法の目的や医師による薬剤の意図、主要な副作用とその徴候を把握したうえで与薬にあたる知識を身につけることを目的とする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	臨床薬理学 薬物治療の基礎 対症療法薬 特定行為に係る研修制度	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 薬物療法における看護師の役割を理解し説明できる。 医薬品の取り扱いの基礎知識を理解し説明できる。 対症療法薬の薬理作用を理解し説明できる。 代表的な疾患の薬物療法を理解し説明できる。 特定の行為に関する薬理学を理解し説明できる。 			
-------	--	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

医薬品の取り扱いの基礎と薬物治療の全般および看護職が遭遇する機会の多い対症療法薬について学修する。また代表的な20疾患についてその病態と症状および薬物療法の基本についても学修する。さらに臨床薬理学の基礎的内容から実際の臨床現場を見据えた応用的内容に至る特定行為に係る薬物治療の実践について学修する。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

すべての看護師が身につけておくべき薬剤の知識と技術および看護師の与薬行為に関する知識を修得するために「薬理学」で学んだ知識を生かせるようにしておいて下さい。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 著者名：井上 智子 窪田 哲朗 編集 出版社：医学書院			書名：今日の治療薬2024 著者名：伊豆津 宏二 他編集 出版社：南江堂 書名：イメージできる臨床薬理学 著者名：ナーシング・サプリ編集委員会編 出版社：MCメディカ			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	さまざまな年代の人々に対する薬物治療や疾病予防に関する知識をよく理解し習得すること。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	疾病予防や薬物治療に関する知識をよく理解し習得すること。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	健康管理や疾病予防に関する薬物の知識をよく理解し習得すること。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	○
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。	○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		35	15	5				5	60
	特定の健康課題に対応する実践能力		20	10	5				5	40
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床看護実践に役立つように、臨床で使用する主要な薬物の種類、その薬物の作用機序、特徴、副作用、適正使用を学ぶとともに、症状と疾患と薬物療法について把握したうえで、与薬にあたる知識を習得する。					薬物療法において、看護師が身につけておくべき基礎知識を理解、習得していること。薬物療法の目的、薬剤の処方の意図、主な副作用とその徴候を把握したうえで、副作用の早期発見・早期対応ができる知識を習得できること。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	序章 臨床薬理学と看護師 1. 看護師と薬理学・薬剤学 2. 薬物療法における看護師の役割 3. 薬物療法における看護師の役割の拡大 4. 看護における臨床薬理学 第1章 薬物治療の基礎 A 医薬品の取り扱い 1. 医薬品の基礎知識 2. 医薬品の体内動態と薬物相互作用 3. 医薬品の処方と調剤 4. 医薬品の適正使用 B 薬物治療の実際 1. 患者と薬物治療 2. 薬物治療の評価 3. 安全管理	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第2回 /	第2章 対症療法薬の臨床薬理学 A 解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド薬 B 制吐薬 C 便秘治療薬 D 下痢治療薬 E 鎮咳・去痰薬 F 鎮静薬 G 睡眠薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	第3章 主要疾患の臨床薬理学 その1 A 循環器系・血液疾患の薬物治療 1. 高血圧症 2. 急性冠症候群 3. 心不全 4. 不整脈 5. 抗血小板・抗凝固療法 B 呼吸器疾患の薬物治療 1. 気管支喘息 2. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）	講義	授業の復習および次回の講義の予習	60
第4回 /	第3章 主要疾患の臨床薬理学 その2 C 消化器疾患の薬物療法 1. 胃・十二指腸潰瘍 2. 胃食道逆流症 3. 慢性肝炎 D 腎疾患の薬物療法 1. 慢性腎臓病（CKD） 2. 透析患者における薬剤管理	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	第3章 主要疾患の臨床薬理学 その3 E 代謝疾患・膠原病の薬物療法 1. 糖尿病 2. 脂質異常症 3. 骨粗鬆症 4. 関節リウマチ F 精神疾患の薬物療法 1. 精神および神経症状にかかわる薬物 2. うつ病・うつ状態 3. 抗精神病薬の臨時投与 4. 抗不安薬の臨時投与 G 神経疾患の薬物療法 1. てんかん 2. パーキンソン病・パーキンソン症候群 3. アルツハイマー型認知症	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第6回 /	第4章 全身状態の管理にかかわる臨床薬理学 その1 A 持続点滴中の薬剤の投与と調整	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	第4章 全身状態の管理にかかわる臨床薬理学 その2 B 術後ならびに呼吸管理にかかわる薬物の投与と調整 C 感染徴候がある者に対する薬物の臨時投与	講義	授業の復習および次回の講義の予習	60
第8回 /	第4章 全身状態の管理にかかわる臨床薬理学 その3 D がん薬物療法における有害事象のマネジメント まとめ	講義	授業の復習	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門基礎教育科目 疾病の成り立ちと治癒過程	免疫学 Immunology	1単位	選 択	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>生体にとって重要な機能を持つ免疫が関与する、生体内で起こる現象について学ぶ。液性免疫、細胞性免疫、抗体産生、抗体分子の構造と機能、抗原認識機構と免疫応答、免疫系の細胞とその働き、免疫による感染防御のメカニズム、自己非自己の認識、輸血や臓器移植と免疫機構の関係、アレルギー、ワクチン、自己免疫疾患、免疫不全等について解説する</p>					
キーワード	液性免疫 細胞性免疫 抗体の構造と機能 アレルギー 感染防御 自己免疫疾患	学修教育目標	免疫機構が関与する様々な生体内で起こる現象について看護の実践との関わりの面において理解できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>免疫学は看護にとって重要となるので、その基本現象、疾病や看護技術との関連を理解する。小テストや国家試験模擬試験などで覚えやすくするので、その都度覚えてほしい。分からないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>生物学・生理学との関連がある。</p>						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書 名：一目でわかる免疫学 第4版 著者名：J・H・L プレーフェアー 他 出版社：メディカル・サイエンスインターナショナル				なし		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	免疫機構が関与する様々な生体内で起こる現象について看護の実践との関わりの面において理解できる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、小テストなどに主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	積極的に自分自身で予習して理解することができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かることを明確にして課題や小テストに取り組める。				○
	② 計画力	計画的に学修内容を理解していける。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		59	30	11					100
評価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	59	30	11					100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								
	特定の健康課題に対応する実践能力								
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
免疫学のあらゆる現象を理解し、疾病や看護技術との関連を理解できる。 国家試験問題に対して正答を出せる。					免疫学の個々の現象について理解できる。 疾病や看護技術との対応を理解できる。 関連の国家試験問題に正答を出せる。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	免疫学とは何か？ 免疫学の概説。学習の目的を理解する。	講義	予習	30
第2回 /	免疫系の細胞 免疫系の細胞の分化と働きについて	講義	予習・復習	30
第3回 /	抗体分子の構造と機能・抗原認識機構 抗体分子の構造と機能、抗原認識機構について理解する。	講義	予習・復習	30
第4回 /	免疫による感染防御のメカニズム 免疫によって感染防御がどのようになされるか理解する。	講義	予習・復習	30
第5回 /	アレルギー・ワクチン アレルギーのメカニズム、ワクチンの働きについて理解する。	講義 小テスト	予習・復習	30
第6回 /	輸血・臓器移植と免疫 輸血や臓器移植をした場合の免疫について	講義	予習・復習	30
第7回 /	免疫不全・自己免疫疾患 免疫不全、自己免疫疾患について	講義・小テスト	予習・復習	30
第8回 /	免疫系疾患と治療 免疫系疾患と治療について	講義	復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。